

平成29年度（平成28年度対象）

教育委員会点検・評価報告書

平成29年8月

伊達市教育委員会

も く じ

1	はじめに	
(1)	趣旨	1
(2)	点検・評価の対象	
(3)	点検・評価の方法と評価区分	
(4)	点検・評価結果の構成	
2	教育委員会の活動状況	3
(1)	教育委員会による点検	
	○平成28年度教育委員会活動一覧	
(2)	項目別点検	
	①教育委員会会議	
	②視察・学校訪問	
	③各種市内行事、会議・研修会等への参加	
	④広報活動	
	⑤パブリックコメントの実施について	
3	「伊達市教育振興基本計画」に基づく管理及び執行状況の評価	11
(1)	学校教育	
	①社会で生きる実践的な力の育成	
	②豊かな心と健やかな体の育成	
	③信頼される学校づくりの推進	
	④安全・安心な教育環境づくりの推進	
(2)	社会教育	
	⑤ふるさと意識を育て地域づくりに参加する青少年教育の推進	
	⑥主体的な地域活動を推進するためのひとづくり・地域づくりの推進	
(3)	芸術文化	
	⑦個性あふれ、潤いのある地域文化の創造	
	⑧芸術・文化のひとづくり・環境づくりの推進	
	⑨歴史・文化を活かしたまちづくりの推進	
(4)	スポーツ振興	
	⑩スポーツ・レクリエーション活動の振興	
(5)	達成度の評価一覧	
4	外部評価	53

1 はじめに

(1) 趣旨

平成19年6月に「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」が改正され（平成20年4月1日施行）、各教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検・評価を行い、その結果に関する報告書を作成して議会に提出・公表することとされました。

そこで、伊達市教育委員会では、平成20年度から、法改正の趣旨である、効果的な教育行政の推進に資するとともに市民の皆さまへの説明責任を果たすため、学識経験者の知見を活用した教育委員会活動の点検・評価を実施しています。

(2) 点検・評価の対象

点検・評価の対象は、伊達市教育振興基本計画に掲げられた「取り組むべき主な施策」とし、その進捗管理を各実施事業の点検・評価結果を踏まえて行っています。

(3) 点検・評価の方法と評価区分（取り組むべき主な施策ごとの評価について）

点検・評価にあたっては、平成28年度に実施した事業・取組の状況を明らかにするとともに、今後における課題と対応方向を示し、達成・完了しているものを「A」、予定どおり進捗中のものを「B」、着手したが遅延しているもの、また、期待できるほど効果が上がっていないものを「C」、着手時期だが未着手のものを「D」、中止・大幅な見直し等が必要なものを「-」として表示しました。

また、点検・評価の客観性を確保するため、教育に関し学識経験を有する外部の方から意見、助言をいただきました。

(4) 点検・評価結果の構成

①取り組むべき主な施策

伊達市教育振興基本計画の教育目標に定めた、重点的に取り組む施策（37項目）です。

②推進方策

重点施策の分析を行い、抽出した課題解決のために設定した具体的な方策です。

③事業目的・取組事項

取り組むべき主な施策に基づく推進方策の事業目的及び取組事項を示しています。

④平成28年度の事業（取組）の概要と実施状況

事業目的・取組事項に沿って平成28年度に実施した主な事業（取組）内容と実施状況を示しています。

⑤平成28年度の評価

平成28年度における事業（取組）の実施状況などを踏まえ、事業目的・取組事項に照らし合わせた評価を行っています。

⑥今後の課題と対応方向

今後の事業（取組）を進める上での課題と対応の方向を示しています。

また、取り組むべき主な施策の評価が「－」（中止・大幅な見直し等）の場合、その理由等を記載しています。

【参考】 地方教育行政の組織及び運営に関する法律

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

2 教育委員会の活動状況

平成28年度の教育委員会の活動について、「教育委員会会議」「学校訪問」などの項目に分け、教育委員会自身による点検を行いました。

(1) 教育委員会による点検

教育委員会会議については、毎月1回、開催する定例会と、必要に応じて開催する臨時会（平成28年度は1回）があり、教育に関する様々な案件について検討し議決を行いました。

定例会については、開催予定や傍聴の案内、会議録等をホームページに掲載しました。また、定例会の開催に合わせて市内の学校を訪問し、意見交換等を行いました。

議案、協議事項の審議及び報告については厳正に行われました。また、委員からの情報提供や事務局からの事業の進捗状況及びその他の関連事項について、委員と事務局の間で意見交換が活発に行われました。さらに、必要に応じて事案の調査、研究、協議及び周知等を行うための委員協議会が開催されました。

以下、平成28年度の主な活動を示し、それぞれの活動内容について報告します。

○平成28年度教育委員会活動一覧

4月21日（木）	定例会
5月19日（木）	定例会 委員協議会
6月23日（木）	学校訪問（稀府小学校） 定例会 委員協議会
7月28日（木）	定例会 委員協議会
8月18日（金）	定例会
9月1日（木）	臨時会
9月29日（木）	学校訪問（大滝小学校） 定例会
10月27日（木）	定例会
11月24日（木）	定例会
12月15日（木）	定例会
1月26日（木）	定例会 委員協議会
2月9日（木）	定例会
3月23日（木）	定例会

(2) 項目別点検

①教育委員会会議

ア 議案について

「伊達市教育委員会事務委任規則」第2条により、教育長に対する事務委任は、次の各号に掲げるものを除き（次に掲げる事項は教育委員会会議での議決が必要）、その権限に属する事務を教育長に委任すると定められています。

また、第3条により、教育長の臨時代理は、第2条各号に掲げる事務（同条第2号に掲げる事務を除く。）について、緊急に処理する必要があり、かつ、教育委員会の会議を開くいとまがないと認められるときは、これを臨時に代理することができ、臨時代理したときは、その旨を直近の教育委員会の会議において報告しなければならないと定められています。

- (1) 教育に関する事務の管理及び執行の基本的な方針を決定すること。
- (2) 教育委員会規則及び教育委員会の定める訓令を制定し、又は改廃すること。
- (3) 教育予算その他議会の議決を経るべき事件の議案について意見を市長に申し出ること。
- (4) 教育委員会の所管に属する学校その他の教育機関を設置し、又は廃止すること。
- (5) 教育長を任免すること。
- (6) 附属機関の委員を任免すること。
- (7) 教育委員会及び教育委員会の所管に属する学校その他の教育機関の職員の任免その他の人事に関すること。
- (8) 特別支援教育推進委員会委員、スポーツ推進委員を委嘱すること。
- (9) 教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価に関すること。
- (10) 請願、陳情等を処理すること。
- (11) 附属機関に対して重要な諮問をすること。
- (12) 学齢児童生徒の就学すべき学校の区域を設定し、又は変更すること。
- (13) 市文化財を指定し、又は解除すること。
- (14) 1件の予定価格100万円以上の教育財産の取得を市長に申し出ること。
- (15) 1件の予定価格100万円以上の工事の計画を策定すること。
- (16) 長の補助機関たる職員若しくは長の管理に属する行政機関の長に教育委員会の権限に属する事務の一部を委任し、又は補助執行させること。
- (17) 長の権限に属する事務の一部を教育委員会に委任すること又は教育委員会の補助機関たる職員に補助執行させることに関する協議に対し同意等を行うこと。

上の表に従い、平成28年度の教育委員会会議にかけられた議案等について、それぞれがどの事項に該当するか、あらためて整理し、その妥当性、効率性といった観点から点検を行いました。

以下の表中右列の数字は、上の表の(1)～(17)の中から該当する番号を当てはめたものです。また、「その他」については、関係例規の規定に基づき審議すべき事案となっているもののほか、全体の場で検討、共通理解を図る必要があると判断されたものです。

また、議事終了後、各担当課による報告・協議が行われ、事業の実績・予定報告や付議前の案件の事前説明、今日的な教育課題への対応策等について共通理解を図るとともに、活発な意見交換を行いました。

平成28年度の議案等については、規則に則って、適切に付議されています。

4月定例会

番 号	案 件	該当
議案第1号	伊達市立学校管理規則の一部を改正する規則	2
議案第2号	伊達市社会教育委員の委嘱について	6
報告第1号	臨時代理の報告について（伊達市立学校職員の平成28年4月1日付人事異動について）	7
報告第2号	臨時代理の報告について（平成27年度伊達市一般会計予算（教育費関係予算）について）	3

5月定例会

番 号	案 件	該当
議案第1号	伊達市特別支援教育推進委員会委員の委嘱について	8
議案第2号	伊達市特別支援教育推進委員会への諮問について	その他
議案第3号	伊達市社会教育委員の委嘱について	6

5月委員協議会

番 号	案 件
協議第1号	伊達市いじめ防止基本方針（素案）について

6月定例会

番 号	案 件	該当
議案第1号	伊達市教育委員会委員協議会規約の一部を改正する内規	2
報告第1号	学校職員の平成28年5月25日付人事発令について	7

6月委員協議会

番 号	案 件
協議第1号	伊達市いじめ防止基本方針（素案）について

7月定例会

番 号	案 件	該当
議案第1号	平成28年度伊達市一般会計補正予算（教育費関係予算）について	3
議案第2号	伊達市いじめ防止基本方針（素案）について	1

7月委員協議会

番 号	案 件
協議第1号	教育委員会の点検・評価について

8月定例会

番 号	案 件	該当
議案第1号	教育委員会の点検・評価について	9
議案第2号	平成28年度伊達市一般会計補正予算（教育費関係予算）について	3
議案第3号	伊達市立学校運営協議会規則	2
議案第4号	伊達市教育委員会が設置する委員会等の委員等の報酬に関する規則	2

9月臨時会

番 号	案 件	該当
議案第1号	教育委員会事務局職員の処分について	7

9月定例会

番 号	案 件	該当
指定第1号	教育長職務代理者の指定について	その他
議案第1号	平成28年度全国学力・学習状況調査「北海道版結果報告書」への市町村別結果の掲載同意について	その他
報告第1号	臨時代理の報告について（平成28年度伊達市一般会計予算（教育費関係予算）について）	3

10月定例会

番 号	案 件	該当
議案第1号	伊達市立学校学校医等表彰規程に基づく被表彰者の決定について	その他
議案第2号	学校職員の処分の内申について	7
議案第3号	伊達市立学校設置条例の一部を改正する条例	3
議案第4号	伊達市立学校通学区域規則の一部を改正する規則	2
議案第5号	伊達市立学校通学区域施行規程の一部を改正する訓令	2
議案第6号	伊達市立学校施設使用許可に関する規則の一部を改正する規則	2
議案第7号	伊達市立学校運営協議会を設置する学校の指定について	4
議案第8号	伊達市立学校運営協議会委員の任命について	7
報告第1号	臨時代理の報告について(平成28年度伊達市一般会計予算(教育費関係予算)について)	3

11月定例会

番 号	案 件	該当
議案第1号	伊達市スポーツ振興基金条例の一部を改正する条例	3
議案第2号	だて歴史の杜カルチャーセンター条例の一部を改正する条例	3
議案第3号	まなびの里条例の一部を改正する条例	3
議案第4号	伊達市総合体育館条例の一部を改正する条例	3
議案第5号	公の施設に係る指定管理者の指定について	3
議案第6号	平成28年度伊達市一般会計補正予算(教育費関係予算)について	3
報告第1号	学校職員の平成28年11月16日付人事発令について	7

12月定例会

番 号	案 件	該当
議案第1号	伊達市教育委員会事務決裁規程の一部を改正する訓令	2
議案第2号	伊達市教育委員会職員服務規程の一部を改正する訓令	2
議案第3号	まなびの里条例施行規則の一部を改正する規則	2
議案第4号	伊達市総合体育館条例施行規則の一部を改正する規則	2
議案第5号	伊達市立学校運営協議会を設置する学校の指定について	4
議案第6号	伊達市立学校運営協議会委員の任命について	7
報告第1号	平成29年度教育行政推進に関する予算について	その他
報告第2号	心身障がい児童生徒の適正就学について	その他

1月定例会

番 号	案 件	該当
議案第1号	平成28年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査「北海道版結果報告書」への市町村別結果の掲載同意について	その他
議案第2号	伊達市立学校教育実践表彰規程に基づく被表彰者の決定について	その他
議案第3号	伊達市立学校運営協議会を設置する学校の指定について	4
議案第4号	伊達市立学校運営協議会委員の任命について	7
議案第5号	伊達市立学校管理規則の一部を改正する規則	2
報告第1号	平成29年度教育行政推進に関する予算について	その他

1月委員協議会

番 号	案 件
協議第1号	平成29年度教育行政執行方針（案）について

2月定例会

番 号	案 件	該当
議案第1号	平成29年度伊達市学校給食センター運営計画について	1
議案第2号	平成28年度伊達市一般会計補正予算（教育費関係予算）について	3
議案第3号	伊達市教育委員会職員服務規程の一部を改正する訓令	2
議案第4号	平成29年度教育行政執行方針について	1
議案第5号	伊達市教育委員会契約審査会規程	2

3月定例会

番 号	案 件	該当
議案第1号	伊達市立学校管理規則の一部を改正する規則	2
議案第2号	伊達市立学校運営協議会を設置する学校の指定について	4
議案第3号	伊達市立学校運営協議会委員の任命について	7
議案第4号	伊達市教育委員会行政組織規則の一部を改正する規則	2
議案第5号	伊達市教育委員会事務決裁規程の一部を改正する訓令	2
議案第6号	伊達市教育委員会が設置する委員会等の委員等の報酬に関する規則の一部を改正する規則	2
報告第1号	臨時代理の報告について（平成29年度伊達市一般会計予算（教育費関係予算）について）	3
報告第2号	臨時代理の報告について（伊達市立学校職員の平成29年4月1日付人事異動について）	7

イ 議事について

条例や規則改正、各種委員の承認等、事務的な手続によるもの以外については、各委員とも高い関心と問題意識を持った積極的な発言がありました。

また、情報提供等の活用により、スムーズに議事が進行されました。議案として取り扱う中、説明や資料提示の方法等を含めたメリハリのある議事運営に努めました。

②視察・学校訪問

教育委員会会議の開催に合わせて、平成28年度においては市内の小学校を訪問し、子どもたちの学びの様子や学校の運営方針、施設、教育環境、授業等、様々な視点で、その学校のよさや抱えている課題などを把握することに努めました。

・平成28年6月23日 稀府小学校

・平成28年9月29日 大滝小学校

内容 授業参観、懇談等

観点 平成28年度の学校経営方針、特色ある学校活動等について

概要

学校の教育目標

学校経営及び学校運営

③各種市内行事、会議・研修会等への参加

市内小中学校の入学式・卒業式等や成人式に、委員長、各委員、教育長らが伊達市教育委員会を代表して出席しました。

また、各種会議・研修会等に各委員が出席しました。会議等の主なものは次のとおりです。

・平成28年7月29日

会議名 伊達市教育実践交流・研修会（伊達市）

・平成28年7月26日～7月27日

会議名 平成28年度北海道都市教育委員会連絡協議会定期総会（紋別市）

・平成29年2月15日～2月16日

会議名 平成28年度胆振管内教育委員会委員研修会（登別市）

④広報活動

定期的に行っている教育委員会会議をはじめ、教育委員会の活動についての情報は、ホームページにより公開しました。今後もより一層市民の理解と協力を得るため、広報紙やホームページ等、既存のメディアについてその活用方法を工夫する必要があると考えています。

⑤パブリックコメントの実施について

広く市民の皆さまのご意見を伺いながら教育行政を執行するために、パブリックコメントを実施しました。平成28年度においては、次のとおり意見募集を行いました。

案 件 名	意 見 募 集 期 間	意見 の数	意見及び 市の回答公表日
「伊達市いじめ防止基本方針（案）」 について	平成28年10月11日 ～平成28年11月10日	9	平成28年11月24日 市ホームページで 公表

3 「伊達市教育振興基本計画」に基づく管理及び執行状況の評価

「伊達市教育振興基本計画」で掲げた取り組むべき主な施策、推進方策に基づいて実施した事業及び取組について、各主管課及び教育委員会による内部評価を行い、今後の課題と方向を示しました。

(1) 学校教育

①社会で生きる実践的な力の育成

取り組むべき主な施策	確かな学力の向上をめざす教育の推進	達成度の評価	B																														
推進方策	学力向上をめざす教育課程の編成・実施・評価、学習指導の工夫・改善、授業の改善に生かす評価の充実																																
<p>《事業目的・取組事項》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学力調査により児童生徒の学力や学習状況を把握しその結果の検証を図る。 ・一人一人が確かな学力を身に付けることを目的として学習指導の工夫・改善を図る。 ・児童生徒や保護者による授業評価を実施し、授業の改善と充実を図る。 																																	
<p>《平成28年度の事業（取組）の概要と実施状況》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4月に全国学力・学習状況調査、12月に伊達市学力テストを実施 ・7月に伊達市教育実践交流・研修会を実施 ・児童生徒による授業評価と学習指導についての保護者評価を全ての小・中学校で実施 																																	
<p>《平成28年度の評価》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学力・学習改善プランを全ての学校で策定することにより学習指導の工夫改善が図られ、学力向上に資することができた。 ・全国学力・学習状況調査の平均正答率について、小学校では実施した4教科のうち国語Bが全国平均以上、国語Aが全国と同程度で、算数A、Bが全国を下回っていた。中学校では実施した4教科のうち国語Aが全国を上回っていたが、国語B、数学A、Bが全国を下回っていた。 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th colspan="2" rowspan="2">成果指標</th> <th rowspan="2">単 位</th> <th rowspan="2">計画策定時 (H21)</th> <th colspan="2">実績値</th> </tr> <tr> <th>H28</th> <th>H30 目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">小学校</td> <td>国語の授業がよく解かると答えた児童</td> <td>%</td> <td>75.0</td> <td>79.7</td> <td>95.0</td> </tr> <tr> <td>算数の授業がよく解かると答えた児童</td> <td>%</td> <td>73.6</td> <td>79.0</td> <td>85.0</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">中学校</td> <td>国語の授業がよく解かると答えた生徒</td> <td>%</td> <td>72.2</td> <td>80.9</td> <td>95.0</td> </tr> <tr> <td>数学の授業がよく解かると答えた生徒</td> <td>%</td> <td>59.7</td> <td>70.6</td> <td>80.0</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right;">(全国学力・学習状況調査 児童・生徒質問紙)</p>				成果指標		単 位	計画策定時 (H21)	実績値		H28	H30 目標値	小学校	国語の授業がよく解かると答えた児童	%	75.0	79.7	95.0	算数の授業がよく解かると答えた児童	%	73.6	79.0	85.0	中学校	国語の授業がよく解かると答えた生徒	%	72.2	80.9	95.0	数学の授業がよく解かると答えた生徒	%	59.7	70.6	80.0
成果指標		単 位	計画策定時 (H21)					実績値																									
				H28	H30 目標値																												
小学校	国語の授業がよく解かると答えた児童	%	75.0	79.7	95.0																												
	算数の授業がよく解かると答えた児童	%	73.6	79.0	85.0																												
中学校	国語の授業がよく解かると答えた生徒	%	72.2	80.9	95.0																												
	数学の授業がよく解かると答えた生徒	%	59.7	70.6	80.0																												
<p>《今後の課題と対応方向》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国学力・学習状況調査結果および伊達市学力テストの結果を分析することで、学校ごとに学力・学習改善プランを作成し、継続して指導を行う必要がある。 ・今後も、教職員の授業に対する自己評価と、児童生徒や保護者による授業評価を比較分析することで学習指導の工夫・改善を図る必要がある。 ・授業評価について、項目の見直しを実態に応じて行なう必要がある。 																																	

取り組むべき主な施策	特別支援教育の充実	達成度の評価	A																										
推進方策	一貫した支援をめざした特別支援教育の推進、特別支援教育推進体制の充実																												
<p>《事業目的・取組事項》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児から中学校卒業まで一貫した支援のため幼稚園・保育所、学校、医療機関、関係する行政機関と連携しながら特別支援教育の推進を図る。 ・伊達市特別支援コーディネーターや伊達市専門家チーム会議の委員の知見を活用し特別支援教育体制の充実を図る。 																													
<p>《平成28年度の事業（取組）の概要と実施状況》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障がいのある児童生徒の適正な就学措置 ・「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」を活用し、校種間における個別の教育支援計画等の円滑かつ効果的な引継ぎ ・障がいのある児童生徒の支援のための体制整備 ・伊達市特別支援コーディネーターによる学校訪問や伊達市専門家チーム会議による専門的助言 ・各学校に特別支援教育支援員17名・介護員18名を配置 																													
<p>《平成28年度の評価》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伊達市特別支援教育推進委員会からの答申に基づき、伊達市特別支援コーディネーターや伊達市専門家チーム会議を活用することで、適正な措置決定をすることができた。 ・幼稚園・保育所、学校、医療機関、関係する行政機関と連携することで、教育的ニーズに対応した教育的支援を図ることができた。 ・必要に応じて、特別支援教育支援員・介護員を配置することで、児童生徒に学習支援や生活支援を行うことができた。 <table border="1" data-bbox="242 1323 1350 1520"> <thead> <tr> <th rowspan="2">成果指標</th> <th rowspan="2">単 位</th> <th rowspan="2">計画策定時 (H21)</th> <th colspan="3">実績値</th> <th rowspan="2">H30 目標値</th> </tr> <tr> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">個別の教育支援計画、指導計画を策定している割合</td> <td>小学校</td> <td>%</td> <td>100.0</td> <td>100.0</td> <td>100.0</td> <td>100.0</td> </tr> <tr> <td>中学校</td> <td>%</td> <td>60.0</td> <td>100.0</td> <td>100.0</td> <td>100.0</td> </tr> </tbody> </table>							成果指標	単 位	計画策定時 (H21)	実績値			H30 目標値	H26	H27	H28	個別の教育支援計画、指導計画を策定している割合	小学校	%	100.0	100.0	100.0	100.0	中学校	%	60.0	100.0	100.0	100.0
成果指標	単 位	計画策定時 (H21)	実績値			H30 目標値																							
			H26	H27	H28																								
個別の教育支援計画、指導計画を策定している割合	小学校	%	100.0	100.0	100.0	100.0																							
	中学校	%	60.0	100.0	100.0	100.0																							
<p>《今後の課題と対応方向》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育支援員及び介護員の措置については、より適正な措置となるよう計画的に学校と連携していく必要がある。 ・教育的ニーズに応じた適切な指導や必要な支援を推進するため、今後とも、関係機関の連携を図る。 ・伊達市特別支援コーディネーターや伊達市専門家チーム会議の委員の知見を活用し、適正な措置決定をすることで、障がいのある児童生徒の自立や社会参加のための支援を継続する。 																													

取り組むべき主な施策	情報教育の充実	達成度の評価	B																			
推 進 方 策	情報教育の充実、情報教育設備の整備																					
<p>《事業目的・取組事項》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報化の進展等に伴い子どもたちが有害情報に適切に対応できる情報活用能力の育成と、発達段階に応じて情報機器を利用する際の情報モラルを身につけさせるための取組を推進する。 ・教育用コンピュータ等の機器及び教育用ソフトウェアの整備充実を図る。 																						
<p>《平成28年度の事業（取組）の概要と実施状況》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コンピュータ等の情報通信機器の正しい利用方法についての指導を実施 ・各種パンフレットや学校便り等を通じて保護者への啓発を実施 ・北海道児童生徒ネットコミュニケーション見守り活動を活用 																						
<p>《平成28年度の評価》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒に対する情報活用能力の育成や情報モラルの指導、情報機器活用のマナーなどネットトラブルの未然防止に向けた指導をすることができた。 ・北海道児童生徒ネットコミュニケーション見守り活動を行うことにより、ネットトラブルの未然防止に向けた指導をすることができた。 <table border="1" data-bbox="309 1032 1283 1238"> <thead> <tr> <th colspan="2" rowspan="2">成果指標</th> <th rowspan="2">単位</th> <th rowspan="2">計画策定時 (H21)</th> <th colspan="2">実績値</th> </tr> <tr> <th>H28</th> <th>H30 目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">コンピュータ1台当たりの 児童、生徒数</td> <td>小学校</td> <td>人/台</td> <td>12.6</td> <td>11.4</td> <td>8.0</td> </tr> <tr> <td>中学校</td> <td>人/台</td> <td>8.0</td> <td>6.8</td> <td>9.0</td> </tr> </tbody> </table>				成果指標		単位	計画策定時 (H21)	実績値		H28	H30 目標値	コンピュータ1台当たりの 児童、生徒数	小学校	人/台	12.6	11.4	8.0	中学校	人/台	8.0	6.8	9.0
成果指標		単位	計画策定時 (H21)					実績値														
				H28	H30 目標値																	
コンピュータ1台当たりの 児童、生徒数	小学校	人/台	12.6	11.4	8.0																	
	中学校	人/台	8.0	6.8	9.0																	
<p>《今後の課題と対応方向》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ネットトラブルや犯罪が増加しているため、保護者と連携した情報モラル教育を継続して行う。 ・インターネットを通じて行われる誹謗・中傷等については、北海道児童生徒ネットコミュニケーション見守り活動を継続することにより、早期発見・早期対応に努める。 ・教育用コンピュータについては、計画的かつ継続的な機器の更新を行う。 																						

取り組むべき主な施策	環境教育の推進		達成度の評価	A																										
推 進 方 策	環境問題への理解の促進、環境に対し行動する意欲や態度の育成																													
<p>《事業目的・取組事項》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然体験や社会体験活動を通じて、環境問題について総合的に考えることができるよう環境教育の取組を促進する。 ・日常生活のなかで日常的に省エネルギー問題に取り組むことの大切さを理解させるための学習機会を提供する。 																														
<p>《平成28年度の事業（取組）の概要と実施状況》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各教科、道徳、特別活動、総合的な学習の時間等、教育活動全体を通して環境教育に関する学習を実施 																														
<p>《平成28年度の評価》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境教育に関する学習を全ての学校で取り入れており、児童生徒が環境問題について考えることができた。 																														
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">成果指標</th> <th rowspan="2">単 位</th> <th rowspan="2">単 位</th> <th rowspan="2">計画策定時 (H21)</th> <th colspan="3">実績値</th> <th rowspan="2">H30 目標値</th> </tr> <tr> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">教科の学習以外において環境教育に取り組んでいる学校の割合</td> <td>小学校</td> <td>%</td> <td>70.0</td> <td>60.0</td> <td>100.0</td> <td>100.0</td> <td>100.0</td> </tr> <tr> <td>中学校</td> <td>%</td> <td>14.3</td> <td>40.0</td> <td>100.0</td> <td>100.0</td> <td>50.0</td> </tr> </tbody> </table>					成果指標	単 位	単 位	計画策定時 (H21)	実績値			H30 目標値	H26	H27	H28	教科の学習以外において環境教育に取り組んでいる学校の割合	小学校	%	70.0	60.0	100.0	100.0	100.0	中学校	%	14.3	40.0	100.0	100.0	50.0
成果指標	単 位	単 位	計画策定時 (H21)	実績値					H30 目標値																					
				H26	H27	H28																								
教科の学習以外において環境教育に取り組んでいる学校の割合	小学校	%	70.0	60.0	100.0	100.0	100.0																							
	中学校	%	14.3	40.0	100.0	100.0	50.0																							
<p>《今後の課題と対応方向》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育活動全体を通して計画的に実施していくとともに、コミュニティ・スクール等を活用しながら継続する。 																														

取り組むべき主な施策	キャリア教育の推進	達成度の評価	C																		
推 進 方 策	望ましい勤労観・職業観の育成																				
<p>《事業目的・取組事項》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の発達段階に応じて、将来の社会的、職業的自立のための、必要な基盤となる能力や態度を育成する。 																					
<p>《平成28年度の事業（取組）の概要と実施状況》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全ての小学校でキャリア教育の全体計画を作成 ・全ての中学校で教育課程に位置づけ、進路指導の全体計画を作成 																					
<p>《平成28年度の評価》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会科や総合的な学習の時間において、地域や事業所の見学、家族・身近な人の仕事調べ、職場体験学習を実施した。 <table border="1" data-bbox="296 864 1294 1072"> <thead> <tr> <th rowspan="2">成果指標</th> <th rowspan="2">単 位</th> <th rowspan="2">計画策定時 (H21)</th> <th colspan="2">実績値</th> </tr> <tr> <th>H28</th> <th>H30 目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">「将来の夢や目標をもっている」と回答した児童、生徒の割合</td> <td>小学校</td> <td>%</td> <td>89.6</td> <td>79.4</td> <td>95.0</td> </tr> <tr> <td>中学校</td> <td>%</td> <td>70.0</td> <td>63.1</td> <td>80.0</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">(全国学力・学習状況調査 児童・生徒質問紙)</p>				成果指標	単 位	計画策定時 (H21)	実績値		H28	H30 目標値	「将来の夢や目標をもっている」と回答した児童、生徒の割合	小学校	%	89.6	79.4	95.0	中学校	%	70.0	63.1	80.0
成果指標	単 位	計画策定時 (H21)	実績値																		
			H28	H30 目標値																	
「将来の夢や目標をもっている」と回答した児童、生徒の割合	小学校	%	89.6	79.4	95.0																
	中学校	%	70.0	63.1	80.0																
<p>《今後の課題と対応方向》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校においては、地域の見学や家族・身近な人の仕事調べ等、発達段階に応じたキャリア教育を継続する。 ・中学校においては、小学校におけるキャリア教育の課題を踏まえ、教職員間で共通理解を図り、キャリア教育を継続する。 ・全ての学校が「伊達地区学校ネットワーク会議」に参加し、キャリア教育の情報収集や意見交換を行う。 ・中学校における職業見学や職業体験学習の充実を図り、進路に向けて意識の向上を図る。 ・小、中学校間のスムーズな接続を図る取り組みを充実する。 																					

取り組むべき主な施策	国際理解教育の充実	達成度の評価	B															
推進方策	外国語教育の充実、国際理解教育の充実																	
<p>《事業目的・取組事項》</p> <p>小学校では、学習指導要領に外国語活動が導入されたことを踏まえ、児童の興味・関心を高める指導方法の充実に取り組む。また、中学校では、外国語を通じてコミュニケーション能力の育成に取り組む。</p> <p>国際社会において主体的に行動できる能力を育成するため、姉妹都市との交流を通じて、異なる文化や習慣をもつ人々と協調して生きていく態度を培う。</p>																		
<p>《平成28年度の事業（取組）の概要と実施状況》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ A L T の学校派遣 小学校 240回、中学校 216回、その他 137回 ・ レイクカウチン中学生派遣事業 派遣期間：平成28年10月5日～平成28年10月12日 派遣人数：19名（中学生13名、引率教員3名、行政職員3名） 																		
<p>《平成28年度の評価》</p> <p>A L T の学校派遣回数については、前年度と比較し若干ではあるが増加しており、伊達市の学校教育の場において重要な役割となってきた。放課後児童クラブへの派遣など国際理解教育の場を広げている。</p> <p>레이크カウチン中学生派遣事業については、現地でのホームステイ等を通じて、大滝中学校生徒を中心とした派遣団が現地で交流することが出来た。</p> <table border="1" data-bbox="252 1220 1337 1471"> <thead> <tr> <th colspan="2" rowspan="2">成果指標</th> <th rowspan="2">計画策定時 (H21)</th> <th>実績値</th> <th rowspan="2">H30 目標値</th> </tr> <tr> <th>H28</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">英語の授業における英語指導助手の派遣回数</td> <td>小学校</td> <td>103回</td> <td>240回</td> <td>300回</td> </tr> <tr> <td>中学校</td> <td>293回</td> <td>216回</td> <td>200回</td> </tr> </tbody> </table>				成果指標		計画策定時 (H21)	実績値	H30 目標値	H28	英語の授業における英語指導助手の派遣回数	小学校	103回	240回	300回	中学校	293回	216回	200回
成果指標		計画策定時 (H21)	実績値				H30 目標値											
			H28															
英語の授業における英語指導助手の派遣回数	小学校	103回	240回	300回														
	中学校	293回	216回	200回														
<p>《今後の課題と対応方向》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ A L T の学校派遣については、今後も小学校において児童の興味・関心を高めるよう内容の工夫を図る。 また、A L T の空き時間を利用し、放課後児童クラブや放課後子ども教室への派遣や、小学校からの英語教育の準備期間として保育所・幼稚園への派遣など検討を続ける。 ・ 中学校においては、高校受験に向けた英語授業が中心となっているため、授業回数の検討が必要となる。 ・ レイクカウチンとの交流事業については、コミュニケーションを通し、레이크カウチン町との連携、協力を密にし、双方にとって意義のある交流になるよう今後も努力を続ける。 																		

取り組むべき主な施策	社会の変化に応じた高等学校教育の推進	達成度の評価	C									
推 進 方 策	高等学校の在り方の検討											
<p>《事業目的・取組事項》</p> <p>・伊達市の特色に応じた新しいタイプの学校の設置や特色ある教育課程の編成に向けて、北海道教育委員会に対して要望活動を行う。</p>												
<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">成果指標</th> <th rowspan="2">計画策定時 (H21)</th> <th>実績値</th> <th rowspan="2">H30 目標値</th> </tr> <tr> <th>H28</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>市内高等学校 への進学率</td> <td>54.4%</td> <td>53.4%</td> <td>60.0%</td> </tr> </tbody> </table>				成果指標	計画策定時 (H21)	実績値	H30 目標値	H28	市内高等学校 への進学率	54.4%	53.4%	60.0%
成果指標	計画策定時 (H21)	実績値	H30 目標値									
		H28										
市内高等学校 への進学率	54.4%	53.4%	60.0%									
<p>《今後の課題と対応方向》</p> <p>・北海道教育委員会が決定する「公立学校配置計画」に対しての継続的な要望活動には限界があることから、今後も公立高等学校配置計画地域別検討協議会において意見交換や情報収集に努める。</p> <p>・今後の急激な人口減少と少子高齢化を迎えることから、地域が将来を担う人材育成をするため、市立中等教育学校の設置の考え方を整理する。</p> <p>・道立高等学校長と市立学校長がそれぞれの課題について、意見交換や情報交換を行う。</p>												

②豊かな心と健やかな体の育成

取り組むべき主な施策	幼稚園教育の充実	達成度の評価	—
推 進 方 策	保護者負担の軽減		
<p>《事業目的・取組事項》</p> <p>私立幼稚園に通園する保護者の負担軽減を図り、幼児教育の振興に寄与するため、就園奨励費の補助を実施する。</p>			
<p>《今後の課題と対応方向》</p> <p>平成28年度から子育て支援課へ事業は移行し、市長部局において引き続き、各家庭の所得状況に対し経済的負担軽減を図るよう適切な交付を行う。</p>			

取り組むべき主な施策	豊かな心を育む教育の推進	達成度の評価	B																			
推 進 方 策	道徳教育の充実、読書活動の推進																					
<p>《事業目的・取組事項》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭や地域との連携を図り、地域の人材や本市が有する自然や歴史的風土等の多様な教育資源を活用して道徳教育の充実を図る。 ・想像力や考える習慣を身に付け、豊かな感性、情操、思いやりの心を育む上で重要な読書活動を推進する。 																						
<p>《平成28年度の事業（取組）の概要と実施状況》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道徳教育全体計画を全ての学校で見直し、学年単位の道徳の年間指導計画を小学校8校、中学校3校で作成 ・「朝の読書」等の読書活動を星の丘小・中学校を除く13校で実施。 																						
<p>《平成28年度の評価》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「道徳の時間」の授業改善に向けた校内研修を小学校7校と全ての中学校で実施した。 ・「道徳の時間」の授業公開を小学校8校、中学校4校で実施した。 <table border="1" data-bbox="274 958 1318 1155"> <thead> <tr> <th rowspan="2">成果指標</th> <th rowspan="2">単 位</th> <th rowspan="2">計画策定時 (H21)</th> <th colspan="2">実績値</th> <th rowspan="2">H30 目標値</th> </tr> <tr> <th>H28</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">人が困っているときは進んで助け ていると答えた児童生徒の割合</td> <td>小学校</td> <td>%</td> <td>75.0</td> <td>84.1</td> <td>80.0</td> </tr> <tr> <td>中学校</td> <td>%</td> <td>71.6</td> <td>76.6</td> <td>80.0</td> </tr> </tbody> </table> <p>(全国学力・学習状況調査 児童・生徒質問紙)</p>				成果指標	単 位	計画策定時 (H21)	実績値		H30 目標値	H28		人が困っているときは進んで助け ていると答えた児童生徒の割合	小学校	%	75.0	84.1	80.0	中学校	%	71.6	76.6	80.0
成果指標	単 位	計画策定時 (H21)	実績値				H30 目標値															
			H28																			
人が困っているときは進んで助け ていると答えた児童生徒の割合	小学校	%	75.0	84.1	80.0																	
	中学校	%	71.6	76.6	80.0																	
<p>《今後の課題と対応方向》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道徳の教科化に向け、道徳教育推進教師を中心とした計画的な研修の推進が必要である。 ・全ての学校において、学年単位の「道徳の時間」の年間指導計画を作成する。 ・道徳教育用教材「私たちの道徳」は、地域や家庭においても重要と考えられるので、授業公開等の機会を活用し保護者等に啓発するとともに、家庭と連携した活用を図る。 																						

取り組むべき主な施策	健やかな体を育てる教育の推進	達成度の評価	B																			
推進方策	体育学習の充実、運動部活動、スポーツ少年団活動の充実																					
<p>《事業目的・取組事項》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの体力・運動能力調査結果を客観的に把握し、体育の授業を中心とした学校教育活動を通じて児童生徒の体力・運動能力を伸ばす。 ・中学校における運動部活動の円滑な実施と学校の枠を超えて行うスポーツ少年団活動の育成を図る。 																						
<p>《平成28年度の事業（取組）の概要と実施状況》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・7月までに小学校5年、中学校2年を対象とした全国体力・運動能力、運動習慣等調査を実施。 ・小学校1年から中学校2年までの全学年で体力テストを実施し、全ての学校において児童生徒の実態に応じた「体力向上プラン」を作成し、体力・運動能力の向上に向けた指導を実施。 																						
<p>《平成28年度の評価》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国体力・運動能力、運動習慣等調査においては、小学校5年生では全8項目中、男子で5項目、女子で4項目、中学校2年生では全9項目中、男子で3項目、女子は2項目で全国平均を上回った。 																						
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th colspan="2" rowspan="2">成果指標</th> <th rowspan="2">単 位</th> <th rowspan="2">計画策定時 (H21)</th> <th colspan="2">実績値</th> </tr> <tr> <th>H28</th> <th>H30 目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">スポーツをすることが好きと答えた児童生徒数の割合</td> <td>小学校</td> <td>%</td> <td>76.4</td> <td>90.7</td> <td>95.0</td> </tr> <tr> <td>中学校</td> <td>%</td> <td>84.6</td> <td>84.8</td> <td>95.0</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">(全国運動能力・運動習慣等調査 児童・生徒質問紙)</p>				成果指標		単 位	計画策定時 (H21)	実績値		H28	H30 目標値	スポーツをすることが好きと答えた児童生徒数の割合	小学校	%	76.4	90.7	95.0	中学校	%	84.6	84.8	95.0
成果指標		単 位	計画策定時 (H21)					実績値														
				H28	H30 目標値																	
スポーツをすることが好きと答えた児童生徒数の割合	小学校	%	76.4	90.7	95.0																	
	中学校	%	84.6	84.8	95.0																	
<p>《今後の課題と対応方向》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、全ての学校において、児童生徒の実態に応じた「体力向上プラン」を作成し、指導を実施する。 ・次期学習指導要領改訂の内容をふまえ、心身の健康、保持増進や豊かなスポーツライフの実現に向けた指導の在り方について研修を深める。 																						

取り組むべき主な施策	体験的な学習・活動の充実		達成度の評価	B			
推 進 方 策	体験的学習の充実						
<p>《事業目的・取組事項》</p> <p>・児童生徒が本物に触れることができる体験的な学習を充実させ、学校の教育活動全体を通して取り組む。</p>							
<p>《平成28年度の事業（取組）の概要と実施状況》</p> <p>・特別活動や総合的な学習の時間等において、体験活動を重視した授業を全ての学校で行い、自然、勤労生産、社会奉仕にかかわる体験活動を実施</p>							
<p>《平成28年度の評価》</p> <p>・キャリア教育の視点を取り入れた職業や就業にかかわる体験的学習を実施することができた。</p>							
成果指標		単 位	計画策定時 (H21)	実績値			H30 目標値
				H26	H27	H28	
総合的な学習の時間において地域の 人材や自然環境など教育資源を 活かした授業の割合	小学校	%	21.4	29.5	36.4	36.4	40.0
	中学校	%	14.7	22.2	25.3	27.5	30.0
<p>《今後の課題と対応方向》</p> <p>・学校の教育活動全体を通じた体験的学習を継続する。</p>							

取り組むべき主な施策	食育・健康教育の推進	達成度の評価	C																				
推 進 方 策	食育の推進、健康教育の充実																						
<p>《事業目的・取組事項》</p> <p>児童生徒の発達段階に応じ健全な食生活を実践できる資質・能力を身につけさせるため、食に関する指導を推進するとともに、体育や特別活動等を通じて各種感染症の予防やストレスへの対処法など、健康に関する知識を高め、学習指導の充実を図る。</p>																							
<p>《平成28年度の事業（取組）の概要と実施状況》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・栄養教諭による食育指導の実施 小学校6校、中学校1校 ・健康診断の結果を全ての学校で活用 ・健康・安全教育を全ての学校で実施 ・アレルギーに係る研修会（エピペン実習）の実施 小学校10校、中学校5校（28人参加） 																							
<p>《平成28年度の評価》</p> <p>栄養教諭による食育指導については、市内小中学校への派遣を実施することができた。</p> <p>全ての学校において、各校の養護教諭や栄養教諭を中心に各種保健指導やフッ化物洗口を実施しており、児童生徒の健康な身体の保持と増進のため、今後も継続したい。</p> <p>朝食を毎日食べている児童生徒の割合は更に低くなり、目標達成は厳しい状況であるが、引き続き保護者等の理解と協力が不可欠であることから、保護者向け学校だより等による啓発活動を実施する。</p> <table border="1" data-bbox="256 1216 1337 1411"> <thead> <tr> <th rowspan="2">成果指標</th> <th rowspan="2">計画策定時 (H21)</th> <th colspan="3">実績値</th> <th rowspan="2">H30 目標値</th> </tr> <tr> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">朝食を毎日食べている児童生徒の割合</td> <td>小 96.5%</td> <td>小 93.2%</td> <td>小 91.8%</td> <td>小 91.5%</td> <td>小学校100%</td> </tr> <tr> <td>中 94.4%</td> <td>中 94.1%</td> <td>中 92.9%</td> <td>中 90.8%</td> <td>中学校100%</td> </tr> </tbody> </table>				成果指標	計画策定時 (H21)	実績値			H30 目標値	H26	H27	H28	朝食を毎日食べている児童生徒の割合	小 96.5%	小 93.2%	小 91.8%	小 91.5%	小学校100%	中 94.4%	中 94.1%	中 92.9%	中 90.8%	中学校100%
成果指標	計画策定時 (H21)	実績値				H30 目標値																	
		H26	H27	H28																			
朝食を毎日食べている児童生徒の割合	小 96.5%	小 93.2%	小 91.8%	小 91.5%	小学校100%																		
	中 94.4%	中 94.1%	中 92.9%	中 90.8%	中学校100%																		
<p>《今後の課題と対応方向》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・朝食を毎日食べている児童生徒の割合は計画策定時より低くなっており、学校での取組だけでなく保護者の理解と協力が必要であり、保護者向けの学校だより等を活用し「早寝早起き朝ごはん」などの健康に関する意識啓発を推進する。 ・児童生徒の食育の充実を図るため、栄養教諭による食育指導を全学校において実施する。 ・平成30年1月から稼動するふれあいだて歴史の杜食育センターを活用し、食育に関する取り組みを検討する。 ・北海道教育委員会において「学校における食物アレルギー対応の進め方」が策定されたことから、学校や学校給食センターを中心にアレルギー有病児童生徒への対応の徹底を進める。 ・教職員向けに感染症予防研修を実施し、予防や対処法などの知識を高め、学習指導の充実を図る。 																							

取り組むべき主な施策	生徒指導・教育相談の充実	達成度の評価	B																																								
推進方策	生徒指導の充実、いじめへの取組の充実、不登校への取組の充実																																										
<p>《事業目的・取組事項》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校全体で取り組む生徒指導体制を充実させる。 ・いじめの実態把握や相談・指導のための校内体制の充実と地域と連携した解決に向けた取組を充実させる。 ・不登校児童生徒へのきめ細やかな支援体制を充実させる。 																																											
<p>《平成28年度の事業（取組）の概要と実施状況》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育相談の実施、生徒指導全体計画の見直しを全ての学校で実施 ・北海道教育委員会によるいじめアンケート調査を市内の全児童生徒を対象に2回実施。 ・いじめの早期発見・解決に向けた校内研修を全ての学校で開催し、校内体制の充実を図り、取組みを実施 ・全校体制による不登校対策の取組として、教育相談、家庭訪問等を全ての学校で実施 ・不登校対策訪問アドバイザーによる学校訪問と家庭訪問 ・不登校児童生徒サポートハウスの運営（対象者13名） 																																											
<p>《平成28年度の評価》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日常的に子どもの様子や動きを注意深く見守り、生徒指導・教育相談を行うことができた。 ・北海道教育委員会によるいじめアンケート調査のほかに学校独自のいじめ調査を小学校6校、全ての中学校で実施した。 ・長期欠席児童生徒は、前年度に比べ小学校では3名増の7名、中学校は同数の20名であった。 ・平成28年度から、いじめの認知方法を変更している、「いじめにあった割合」が増となっている。 																																											
<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">成果指標</th> <th rowspan="2">単 位</th> <th rowspan="2">計画策定時 (H21)</th> <th colspan="3">実績値</th> <th rowspan="2">H30 目標値</th> </tr> <tr> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">不登校児童生徒の割合</td> <td>小学校</td> <td>%</td> <td>0.3</td> <td>0.0</td> <td>0.2</td> <td>0.4</td> <td>0.0</td> </tr> <tr> <td>中学校</td> <td>%</td> <td>2.9</td> <td>3.0</td> <td>2.3</td> <td>2.3</td> <td>0.0</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">いじめにあった児童生徒の割合</td> <td>小学校</td> <td>%</td> <td>1.8</td> <td>0.1</td> <td>0.1</td> <td>8.4</td> <td>0.0</td> </tr> <tr> <td>中学校</td> <td>%</td> <td>0.5</td> <td>0.0</td> <td>0.0</td> <td>0.1</td> <td>0.0</td> </tr> </tbody> </table>				成果指標	単 位	計画策定時 (H21)	実績値			H30 目標値	H26	H27	H28	不登校児童生徒の割合	小学校	%	0.3	0.0	0.2	0.4	0.0	中学校	%	2.9	3.0	2.3	2.3	0.0	いじめにあった児童生徒の割合	小学校	%	1.8	0.1	0.1	8.4	0.0	中学校	%	0.5	0.0	0.0	0.1	0.0
成果指標	単 位	計画策定時 (H21)	実績値				H30 目標値																																				
			H26	H27	H28																																						
不登校児童生徒の割合	小学校	%	0.3	0.0	0.2	0.4	0.0																																				
	中学校	%	2.9	3.0	2.3	2.3	0.0																																				
いじめにあった児童生徒の割合	小学校	%	1.8	0.1	0.1	8.4	0.0																																				
	中学校	%	0.5	0.0	0.0	0.1	0.0																																				
<p>《今後の課題と対応方向》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校長を中心とした全校体制による生徒指導・教育相談を充実強化する。 ・伊達市いじめ防止基本方針に則り、市全体で、いじめの未然防止や早期発見・早期解決のための取組を効果的に行う。 ・いじめ防止の根幹となる人権教育を推進する。 ・不登校児童生徒への関わりを不登校児童生徒サポートハウスを有効活用しながら進める。 																																											

③信頼される学校づくりの推進

取り組むべき主な施策	開かれた学校づくりの推進	達成度の評価	A																																									
推 進 方 策	学校評価・情報提供の促進、学校支援ボランティアなど地域人材の活用																																											
<p>《事業目的・取組事項》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者や地域への教育活動への参画を促進するとともに、積極的な情報の発信等、開かれた学校づくりを図る。 ・学校支援ボランティアなど地域人材の活用を図る。 																																												
<p>《平成28年度の事業（取組）の概要と実施状況》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒・保護者・教職員・学校評議員のアンケートによる学校関係者評価を実施 ・学校評価を学校便りやホームページを使って公表 ・地域に向けた公開授業を小学校8校、中学校4校で実施 ・地域人材を活用した教育活動を全ての学校で実施 ・学校評議員制度の目的や役割が定着し、学校運営協議会を通して地域へ情報発信する開かれた学校づくりの推進 																																												
<p>《平成28年度の評価》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・客観的で信頼性の高い学校関係者による学校評価を全ての学校で導入している。 ・学校評価の分析・公表が定着し、その結果について、全ての学校で次年度の学校経営計画に反映させている。 ・小学校3校、中学校2校がコミュニティ・スクールを先行導入し、地域や保護者の意見を学校運営に反映させることができた。 <table border="1" data-bbox="233 1294 1358 1590"> <thead> <tr> <th colspan="2" rowspan="2">成果指標</th> <th rowspan="2">単 位</th> <th rowspan="2">計画策定時 (H21)</th> <th colspan="3">実績値</th> <th rowspan="2">H30 目標値</th> </tr> <tr> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">学校を支援する地域組織を 設置している学校の割合</td> <td>小学校</td> <td>%</td> <td>40.0</td> <td>100.0</td> <td>100.0</td> <td>100.0</td> <td>100.0</td> </tr> <tr> <td>中学校</td> <td>%</td> <td>28.6</td> <td>60.0</td> <td>60.0</td> <td>60.0</td> <td>60.0</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">学校評議員を設置している 学校の割合</td> <td>小学校</td> <td>%</td> <td>90.0</td> <td>100.0</td> <td>100.0</td> <td>100.0</td> <td>100.0</td> </tr> <tr> <td>中学校</td> <td>%</td> <td>85.7</td> <td>100.0</td> <td>100.0</td> <td>100.0</td> <td>100.0</td> </tr> </tbody> </table>				成果指標		単 位	計画策定時 (H21)	実績値			H30 目標値	H26	H27	H28	学校を支援する地域組織を 設置している学校の割合	小学校	%	40.0	100.0	100.0	100.0	100.0	中学校	%	28.6	60.0	60.0	60.0	60.0	学校評議員を設置している 学校の割合	小学校	%	90.0	100.0	100.0	100.0	100.0	中学校	%	85.7	100.0	100.0	100.0	100.0
成果指標		単 位	計画策定時 (H21)					実績値				H30 目標値																																
				H26	H27	H28																																						
学校を支援する地域組織を 設置している学校の割合	小学校	%	40.0	100.0	100.0	100.0	100.0																																					
	中学校	%	28.6	60.0	60.0	60.0	60.0																																					
学校評議員を設置している 学校の割合	小学校	%	90.0	100.0	100.0	100.0	100.0																																					
	中学校	%	85.7	100.0	100.0	100.0	100.0																																					
<p>《今後の課題と対応方向》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティ・スクールの導入に伴い、地域人材の活用を目指す。 ・学校運営協議会による、学校関係者評価等の充実、改善に向けた活動を行う。 																																												

取り組むべき主な施策	特色ある学校づくりの推進	達成度の評価	B				
推 進 方 策	地域に関する学習活動の推進						
<p>《事業目的・取組事項》</p> <ul style="list-style-type: none"> 本市の歴史的風土、伝統、文化など特色のある優れた歴史文化資源を活用した授業を展開する。 							
<p>《平成28年度の事業（取組）の概要と実施状況》</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域の人材を活用した学習活動が行われ、地域の歴史、伝統や文化に触れる学習活動を実施 							
<p>《平成28年度の評価》</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域の特色ある教育資源を活用した授業により、地域への理解につながった。 							
成果指標		単 位	計 画 策 定 時 (H21)	実 績 値			H30 目 標 値
総合的な学習の時間において地域の 人材や自然環境など教育資源を 活かした授業の割合	小学校	%	21.4	29.5	36.4	36.4	40.0
	中学校	%	14.7	22.2	25.3	27.5	30.0
<p>《今後の課題と対応方向》</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校ごとに地域の特色ある教育資源を活用した授業を継続する。 地域の歴史的風土、伝統、文化などを学ぶ授業を継続する。 							

取り組むべき主な施策	学校間の連携・接続の推進		達成度の評価	A																													
推進方策	幼稚園・保育所と小学校との連携に向けた取組、小学校と中学校との連携に向けた取組																																
<p>《事業目的・取組事項》</p> <ul style="list-style-type: none"> 幼稚園から中学校までの子どもの発達段階にある子どもの小学校入学時、中学校入学時における学習のつまずき解消を目的に学校種間の連携・接続を図る。 																																	
<p>《平成28年度の事業（取組）の概要と実施状況》</p> <ul style="list-style-type: none"> 幼稚園、保育所との交流、幼児の小学校への体験入学、指導要録等の引継ぎ時に情報交換を星の丘小学校を除く全ての小学校で実施 小学校との学習指導や生徒指導、授業研究会の交流を全ての中学校で実施 進学先の高等学校との情報交換を全ての中学校で実施 																																	
<p>《平成28年度の評価》</p> <ul style="list-style-type: none"> 幼稚園、保育所と小学校、小学校と中学校との連携により、教職員相互の児童生徒理解が深まり、発達段階に応じた子どもへの対応につながった。 																																	
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th colspan="2" rowspan="2">成果指標</th> <th rowspan="2">単 位</th> <th rowspan="2">計画策定時 (H21)</th> <th colspan="3">実績値</th> <th rowspan="2">H30 目標値</th> </tr> <tr> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">小中学校間での授業研究会・参観日を実施している学校の割合</td> <td>小学校</td> <td>%</td> <td>40.0</td> <td>100.0</td> <td>100.0</td> <td>100.0</td> <td>100.0</td> </tr> <tr> <td>中学校</td> <td>%</td> <td>85.7</td> <td>100.0</td> <td>100.0</td> <td>100.0</td> <td>100.0</td> </tr> </tbody> </table>								成果指標		単 位	計画策定時 (H21)	実績値			H30 目標値	H26	H27	H28	小中学校間での授業研究会・参観日を実施している学校の割合	小学校	%	40.0	100.0	100.0	100.0	100.0	中学校	%	85.7	100.0	100.0	100.0	100.0
成果指標		単 位	計画策定時 (H21)	実績値			H30 目標値																										
				H26	H27	H28																											
小中学校間での授業研究会・参観日を実施している学校の割合	小学校	%	40.0	100.0	100.0	100.0	100.0																										
	中学校	%	85.7	100.0	100.0	100.0	100.0																										
<p>《今後の課題と対応方向》</p> <ul style="list-style-type: none"> 市内の道立学校を含めた学校種間の連携・接続を通して、教職員相互の児童生徒理解を深め、子どもの学習意欲を高めるとともに、学習のつまずきの解消等を目的とした効果的な引継ぎを促進する。 																																	

取り組むべき主な施策	教職員の資質向上	達成度の評価	B																				
推進方策	管理職のリーダーシップによる学校組織の活性化、教職員の資質・能力の向上																						
<p>《事業目的・取組事項》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校運営の責任者としてリーダーシップを発揮する校長や教頭の管理職としての資質・能力を高め、学校組織の活性化を図る。 ・信頼され、優れた資質・能力を有する教職員の育成を図る。 																							
<p>《平成28年度の事業（取組）の概要と実施状況》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定例校長会・定例教頭会を毎月1回開催、校長会・教頭会合同研修会を1回開催 ・胆振教育局義務教育指導監や指導主事と指導室指導員の学校訪問を実施 ・7月に伊達市教育実践交流・研修会での、学校管理職による助言 ・伊達市教育実践交流・研修会における分科会の開催（7分科会） ・東小学校を研究指定校に指定し、全教職員を対象に公開研究会を開催 																							
<p>《平成28年度の評価》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修会や公開研究会等に参加することで、他の学校の取り組みについて交流することにより、資質・能力の向上を図ることができた。 																							
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">成果指標</th> <th rowspan="2">単位</th> <th rowspan="2">計画策定時 (H21)</th> <th colspan="3">実績値</th> <th rowspan="2">H30 目標値</th> </tr> <tr> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>伊達市教育実践交流・研修会に参加した 教員の割合</td> <td>%</td> <td>27.6</td> <td>52.3</td> <td>51.8</td> <td>63.3</td> <td>80.0</td> </tr> </tbody> </table>							成果指標	単位	計画策定時 (H21)	実績値			H30 目標値	H26	H27	H28	伊達市教育実践交流・研修会に参加した 教員の割合	%	27.6	52.3	51.8	63.3	80.0
成果指標	単位	計画策定時 (H21)	実績値			H30 目標値																	
			H26	H27	H28																		
伊達市教育実践交流・研修会に参加した 教員の割合	%	27.6	52.3	51.8	63.3	80.0																	
<p>《今後の課題と対応方向》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員の資質・能力の育成・向上を図ることを目的として、研修会等や学校訪問による指導・助言を通し、本市における教育課題の共有化、教職員の資質向上を図っていく。 ・今後も、研究指定校を輪番制で指定し、研究成果を公開研究会で発表することで学校の教育力を高める。 																							

④安全・安心な教育環境づくりの推進

取り組むべき主な施策	耐震化、防災機能の充実	達成度の評価	B													
推 進 方 策	耐震性の確保を図る整備、学校施設の安全性の確保を図る整備															
<p>《事業目的・取組事項》</p> <p>学校施設の耐震診断、耐震補強等を計画的に実施し、耐震性の確保と子どもたちや地域住民が安心して学校施設を利用できるよう施設の安全管理に努める。</p>																
<p>《平成28年度の事業（取組）の概要と実施状況》</p> <p>学校施設の安全性を高めるために、老朽化に対し改修工事や修繕を進め、過ごしやすい環境を整える。</p> <p>長和小学校屋体外壁等改修工事、伊達西小学校校門移設工事、光陵中学校校舎外壁改修工事、光陵中学校法面補修工事、光陵中学校玄関扉等改修工事、他各箇所修繕を実施</p> <p>※耐震化率 小学校72% 中学校100%</p>																
<p>《平成28年度の評価》</p> <p>老朽化している施設・設備の改修工事や修繕の実施により、児童生徒の安全と、安心して学べる環境を確保できた。</p> <table border="1" data-bbox="416 1193 1177 1386"> <thead> <tr> <th rowspan="2">成果指標</th> <th rowspan="2">計画策定時 (H21)</th> <th colspan="2">実績値</th> </tr> <tr> <th>H28</th> <th>H30 目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">耐震化率</td> <td>小学校40.0%</td> <td>小学校72.0%</td> <td>小学校75.0%</td> </tr> <tr> <td>中学校92.0%</td> <td>中学校100%</td> <td>中学校100%</td> </tr> </tbody> </table>				成果指標	計画策定時 (H21)	実績値		H28	H30 目標値	耐震化率	小学校40.0%	小学校72.0%	小学校75.0%	中学校92.0%	中学校100%	中学校100%
成果指標	計画策定時 (H21)	実績値														
		H28	H30 目標値													
耐震化率	小学校40.0%	小学校72.0%	小学校75.0%													
	中学校92.0%	中学校100%	中学校100%													
<p>《今後の課題と対応方向》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伊達小学校体育館については耐震強度不足であることから、学校給食センター移転後の平成30年度に向け増改築を計画する。 ・非構造部材の耐震点検を進めるとともに、必要な修繕、改修を行う。 ・各学校とも施設、設備の老朽化が進んでいることから、学校統廃合の進捗状況を踏まえながら学校施設の耐震化や老朽化した施設の設備について、計画的な改修を行う。 																

取り組むべき主な施策	学校の安全対策の充実	達成度の評価	A											
推 進 方 策	安全管理の徹底、地域ぐるみの学校安全体制整備の推進													
<p>《事業目的・取組事項》</p> <p>災害による事故や通学路における交通事故を含めた学校事故防止のため、学校、家庭、地域と連携を図り、警察や消防の協力のもと訓練や指導を行うことで学校安全の徹底を図る。</p> <p>また、学校安全対策の充実のため、地域社会全体で学校安全に取り組む体制を整備する。</p>														
<p>《平成28年度の事業（取組）の概要と実施状況》</p> <ul style="list-style-type: none"> 交通安全教室、防災・防犯教室を全ての学校（星の丘小中学校を除く）開催 地域ボランティアとの連携 スクールガードリーダーによる通学路等の巡回指導の実施 88回実施（星の丘小を除く市内小学校） 伊達市通学路安全推進会議の設置 伊達市通学路安全推進会議を開催し、通学路における危険箇所の合同点検を実施 														
<p>《平成28年度の評価》</p> <p>日常的な指導や保護者向けの学校便り等による情報提供のほか、星の丘小中学校を除く全学校で交通安全教室や防災・防犯教室が実施されたことにより、児童生徒の意識啓発が図られた。</p> <p>スクールガードリーダーの巡回指導により、不審者情報や危険箇所についての学校への迅速な情報提供、通学路パトロールボランティア等の活動といった地域ぐるみで児童生徒を見守る取組が広がりを見せている。</p> <p>また、関係機関を構成員とする伊達市通学路安全推進会議を開催し、伊達市通学路交通安全プログラムに基づき、通学路における危険箇所の合同点検を実施し、改善に向けた対策内容を決定した。</p> <table border="1" data-bbox="264 1339 1326 1541"> <thead> <tr> <th rowspan="2">成果指標</th> <th rowspan="2">単位</th> <th rowspan="2">計画策定時 (H21)</th> <th>実績値</th> <th rowspan="2">H30 目標値</th> </tr> <tr> <th>H28</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>スクールガードリーダーの派遣指導回数</td> <td>回</td> <td>24</td> <td>88</td> <td>88</td> </tr> </tbody> </table>				成果指標	単位	計画策定時 (H21)	実績値	H30 目標値	H28	スクールガードリーダーの派遣指導回数	回	24	88	88
成果指標	単位	計画策定時 (H21)	実績値				H30 目標値							
			H28											
スクールガードリーダーの派遣指導回数	回	24	88	88										
<p>《今後の課題と対応方向》</p> <ul style="list-style-type: none"> 犯罪から子どもを守るための対策として国が掲げた「緊急対策6項目」や大規模災害を教訓に策定された「学校安全の推進に関する計画」を参考にしながら、有珠山に近接する本市の地域特性を踏まえつつ、地域社会全体で学校安全に取り組む体制整備を引き続き推進する。 学校、保護者、関係機関を構成員とする伊達市通学路安全推進会議を開催し、通学路交通安全プログラムに基づく通学路の交通安全に関する取組を継続する。 <p>また、児童生徒の安全を図るため、黄金地区・稀府地区の通学路の一部に防犯灯の設置を予定している。</p>														

取り組むべき主な施策	少子化に対応した学校適正配置の推進	達成度の評価	A																					
推 進 方 策	小学校、中学校の適正配置の推進																							
<p>《事業目的・取組事項》</p> <p>少子化の状況、保護者や地域の意見等を踏まえた学校の適正配置を行い、活力ある学習環境を創出する。</p>																								
<p>《平成28年度の事業（取組）の概要と実施状況》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校適正配置基本方針及び実施計画に基づき、児童生徒数の推移を見ながら統廃合の対象となる学校関係者との意見交換の実施及び統廃合に向けた統合準備協議会における具体的な協議検討。 ・達南中の閉校については、円滑な統合に向けて2回統合準備会を開催。 ・平成28年度については、達南中学校が閉校となり伊達中学校と統合。 																								
<p>《平成28年度の評価》</p> <p>中学校の学校適正については、計画通りに進むことが出来た。</p> <p>達南中・伊達中学校に向けて、統合準備会の中で、スクールバスの運行や閉校記念事業等基本的な考え方の確認を行いながら円滑に統合が進んだ。</p> <p>小学校の統合については、順次、保護者の考え方を聞くための意見交換会を開催したが、引き続き意見交換会を続ける必要がある。</p> <table border="1" data-bbox="252 1261 1337 1503"> <thead> <tr> <th rowspan="2">成果指標</th> <th rowspan="2">計画策定時 (H21)</th> <th colspan="3">実績値</th> <th rowspan="2">H30 目標値</th> </tr> <tr> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小学校数</td> <td>10校</td> <td>10校</td> <td>10校</td> <td>10校</td> <td>10校</td> </tr> <tr> <td>中学校数</td> <td>7校</td> <td>5校</td> <td>5校</td> <td>4校</td> <td>4校</td> </tr> </tbody> </table>				成果指標	計画策定時 (H21)	実績値			H30 目標値	H26	H27	H28	小学校数	10校	10校	10校	10校	10校	中学校数	7校	5校	5校	4校	4校
成果指標	計画策定時 (H21)	実績値				H30 目標値																		
		H26	H27	H28																				
小学校数	10校	10校	10校	10校	10校																			
中学校数	7校	5校	5校	4校	4校																			
<p>《今後の課題と対応方向》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校は、子どもの教育環境の改善のため、望ましい学校規模について、保護者等との意見交換・協議を継続する。 ・大滝区の小中学校については、通学時間の問題など、他の学校との統合は難しいため、義務教育の9年間のカリキュラムを行う義務教育学校の設置を目指す。 																								

(2) 社会教育

⑤ふるさと意識を育て地域づくりに参加する青少年教育の推進

取り組むべき主な施策	心を育む体験活動の推進	達成度の評価	B										
推 進 方 策	体験活動の推進、相談体制の充実												
<p>《事業目的・取組事項》</p> <p>青少年の健やかな成長を図るため、青少年が活動できる居場所づくりに努めるとともに、青少年の活動要求に応え、世代間交流や地域交流活動の活性化を図る。</p> <p>青少年の悩みごと相談体制の充実を図るとともに、関係機関との協力により指導・助言を強化する。</p>													
<p>《平成28年度の事業（取組）の概要と実施状況》</p> <p>1. 概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・青少年を対象とした事業や研修の実施と北海道や各機関が実施する研修会への派遣 ・伊達市青少年指導センターとの連携による相談体制の充実 <p>2. 実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な体験や交流活動を図る「だてっ子遊び学びの教室」の開催 ・親子の交流を図る親子体験教室「親子クッキング」の開催 ・昔遊びなどをおし社会性を養うことを目的とする「あそびましておめでとう」の開催 ・伊達市青少年指導センターが行う街頭指導時の指導・助言と情報を共有化することにより相談体制の充実を図った。 													
<p>《平成28年度の評価》</p> <p>各種事業等は、子ども同士や異世代等とふれあう貴重な機会となり、各種交流や交流活動の活性化を図ることができた。</p> <p>青少年事業活動団体と継続した青少年教育事業の実施に向けた協議を行い、引き続き事業実施へ向け協力を得ることが出来た。</p> <p>※青少年教育事業への参加者数 324名</p> <p>伊達市青少年指導センターとの連携により相談体制の充実を図ることができた。</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">成果指標</th> <th>計画策定時</th> <th>実績値</th> <th rowspan="2">H30 目標値</th> </tr> <tr> <th>(H21)</th> <th>H28</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>青少年教育事業 への参加者数</td> <td>947人</td> <td>324人</td> <td>400人</td> </tr> </tbody> </table>				成果指標	計画策定時	実績値	H30 目標値	(H21)	H28	青少年教育事業 への参加者数	947人	324人	400人
成果指標	計画策定時	実績値	H30 目標値										
	(H21)	H28											
青少年教育事業 への参加者数	947人	324人	400人										
<p>《今後の課題と対応方向》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・青少年事業を実施する上で、青少年団体の協力が必要不可欠であり、青少年の健やかな成長を図るうえで何が必要な事業であるかを見極めながら継続した事業展開へ向け引き続き検討が必要である。 ・今後も伊達市青少年指導センターとの連携を図る。 													

取り組むべき主な施策	青少年団体活動の推進	達成度の評価	A										
推 進 方 策	青少年団体及び指導者の育成、学習・交流活動の推進												
<p>《事業目的・取組事項》</p> <p>青少年団体及び青少年健全育成団体間の連携強化を図り、指導者の発掘と養成及び資質の向上を図り、その活用を推進する。</p> <p>団体活動の活性化のため、野外活動等の事業を充実するとともに団体相互の交流や各種講座・講習会などへの参加を促進する。</p>													
<p>《平成28年度の事業（取組）の概要と実施状況》</p> <p>1. 概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北海道などが主催する各種リーダー養成講習会への派遣 ・青少年団体活動等の活性化 ・姉妹都市、歴史友好都市シニアリーダー研修交流会の開催 <p>2. 実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北海道教育委員会主催の養成講座「ジュニアリーダーコース」に青少年3名を派遣 ・伊達favoriteClub、スポーツ少年団及びボーイスカウトの活動に対し、財政的支援を実施 ・スポーツ少年団シニアクラブと情報交換を行うとともに、同クラブ会員を姉妹都市、歴史友好都市シニアリーダー研修交流会へ派遣 													
<p>《平成28年度の評価》</p> <p>養成講座に青少年を派遣したことにより、今後の青少年団体等の活性化が期待される。また、各団体に財政的支援、助言を行うことにより、各団体の活性化が図られた。青少年健全育成に携わる各団体と連携して事業を実施することが出来た。</p> <p>その他、スポーツ少年団シニアクラブの会員の養成及び資質の向上を図ることができた。</p> <table border="1" data-bbox="256 1335 1334 1576"> <thead> <tr> <th rowspan="2">成果指標</th> <th>計画策定時 (H21)</th> <th>実績値</th> <th rowspan="2">H30 目標値</th> </tr> <tr> <th></th> <th>H28</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>北海道などが主催する各種リーダー養成講習会及び姉妹都市・歴史友好都市シニアリーダー研修交流会参加者数</td> <td>6人</td> <td>8人</td> <td>7人</td> </tr> </tbody> </table>				成果指標	計画策定時 (H21)	実績値	H30 目標値		H28	北海道などが主催する各種リーダー養成講習会及び姉妹都市・歴史友好都市シニアリーダー研修交流会参加者数	6人	8人	7人
成果指標	計画策定時 (H21)	実績値	H30 目標値										
		H28											
北海道などが主催する各種リーダー養成講習会及び姉妹都市・歴史友好都市シニアリーダー研修交流会参加者数	6人	8人	7人										
<p>《今後の課題と対応方向》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・青少年健全育成に関わる各団体との連携強化についての検討を進める。 ・各種講座、講習会などへの参加の更なる促進を図る。 ・少子化に伴い青少年等団体が減少し、いかにして必要な事業を展開していけるか各団体と協力連携が必要である。 ・団体の活性化につなげるため団体相互の交流を模索することが必要である。 													

⑥主体的な地域活動を推進するためのひとづくり・地域づくりの推進

取り組むべき主な施策	生涯にわたる充実した学習機会の提供	達成度の評価	A									
推 進 方 策	学習活動の促進、団体活動への支援											
<p>《事業目的・取組事項》</p> <p>趣味や教養などの学習に加え、現代的課題や地域課題に関する学習内容について取り組む。ボランティア団体等の育成及び活動の支援に努める。</p>												
<p>《平成28年度の事業（取組）の概要と実施状況》</p> <p>◎市民講座、だて市民カレッジ、マイプラン・マイスタディ事業受講者数：411名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習意欲を喚起する各種講座の開設と学習の場の提供を目的とした、市民講座を開設し学習、実技講座を中心に8講座開設（受講者：104名） ・だて市民カレッジは、一般教養講演を4講演、見学研修を1回開講（受講者：140名） ・自らが企画し広く市民に学習の場を提供する団体への支援を目的とした、市民自主学习事業マイプラン・マイスタディ事業は、4件（参加者：167名）実施に対し講師謝礼を助成 ・[市職員による宅配講座は102件実施（受講者3,303名）] 												
<p>《平成28年度の評価》</p> <p>だて市民カレッジ、市職員による宅配講座では、市民の多様な学習ニーズに対し身近な話題となるテーマなどの学習機会を提供することができた。</p> <p>市民講座は、受講後同好会サークルへと発展し学習活動を継続しているグループに発展するなど、生涯学習の活性化に繋がった。</p> <table border="1" data-bbox="379 1335 1214 1527"> <thead> <tr> <th rowspan="2">成果指標</th> <th rowspan="2">計画策定時 (H21)</th> <th>実績値</th> <th rowspan="2">H30 目標値</th> </tr> <tr> <th>H28</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>市民講座・市民カレッジの受講者数</td> <td>308人</td> <td>411人</td> <td>300人</td> </tr> </tbody> </table>				成果指標	計画策定時 (H21)	実績値	H30 目標値	H28	市民講座・市民カレッジの受講者数	308人	411人	300人
成果指標	計画策定時 (H21)	実績値	H30 目標値									
		H28										
市民講座・市民カレッジの受講者数	308人	411人	300人									
<p>《今後の課題と対応方向》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民の多様な学習ニーズに対応するためには、講師等の発掘など情報収集が必要である。 ・市民周知の方法として新聞等を有効に活用することが必要である。 												

取り組むべき主な施策	高齢者が健やかで豊かに学ぶ機会の創出	達成度の評価	B									
推 進 方 策	学習機会の確保、社会参加活動の促進											
<p>《事業目的・取組事項》</p> <p>高齢者を対象とした学習機会の提供を継続実施するとともに、仲間づくりや生きがいづくりを進めるための団体・サークル活動の育成支援を推進する。</p> <p>自治会や老人クラブ等への積極的な参加を促進する。</p>												
<p>《平成28年度の事業（取組）の概要と実施状況》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成28年度の長生大学（伊達及び有珠）の学生数は242名（うち、新入生は24名） ・伊達長生大学、有珠長生大学とも関心の高いテーマや身近なテーマを中心に年間21日間の講義、12種類の実技講座を実施した。 ・北黄金貝塚公園の草刈作業、施設に対する慰問活動を計4回行った。 												
<p>《平成28年度の評価》</p> <p>1年を通して様々な学習や行事を実施することができたことにより、学生相互の研鑽と交流を図ることができた。</p> <p>また、学生がボランティア活動として、草刈や高齢者施設への慰問、青少年育成事業に参加したことにより、幅広い世代との地域交流を図ることができた。</p> <table border="1" data-bbox="373 1151 1209 1326"> <thead> <tr> <th rowspan="2">成果指標</th> <th rowspan="2">計画策定時 (H21)</th> <th>実績値</th> <th rowspan="2">H30 目標値</th> </tr> <tr> <th>H28</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>長生大学学生数</td> <td>263人</td> <td>242人</td> <td>300人</td> </tr> </tbody> </table>				成果指標	計画策定時 (H21)	実績値	H30 目標値	H28	長生大学学生数	263人	242人	300人
成果指標	計画策定時 (H21)	実績値	H30 目標値									
		H28										
長生大学学生数	263人	242人	300人									
<p>《今後の課題と対応方向》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢社会において、心身の健康と生きがいは必要不可欠なものであり、学生の多岐にわたる学習ニーズも考えながら講義等の内容を検討し学習計画を構築する必要がある。 ・長生大学の学生数が伸び悩んでおり、特に男性が少ないことから、男性が参加しやすい環境づくり（周知・プログラム内容）を検討する必要がある。 												

取り組むべき主な施策	家庭・地域の教育力の向上	達成度の評価	A											
推 進 方 策	家庭教育に関する情報の提供、地域の教育力の向上													
<p>《事業目的・取組事項》</p> <p>親同士、親子交流の場をつくり、子育ての指導・支援を行うとともに、子育ての悩みに対応できる環境の充実を図る。</p> <p>関係機関、団体等と連携した次代の親となる若い世代を対象とした学習機会の充実を図る。</p>														
<p>《平成28年度の事業（取組）の概要と実施状況》</p> <ul style="list-style-type: none"> 伊達市PTA連合会が行う研究大会に対する財政的支援 伊達市PTA連合会研究大会（参加者：166名） 講演：演題「この時代の家庭と子育てに必要なこと」 講師：金子耕式 ラジオパーソナリティ 家庭教育についての啓発として、「早寝早起き朝ごはん」運動（文部科学省作成リーフレット）を新1年生保護者に配布 家庭教育についての啓発として、広報だて7月号に家庭教育に関する記事を掲載 														
<p>《平成28年度の評価》</p> <p>伊達市PTA連合会は「PTA活動を通して、保護者と教師が信頼を深め、地域との行動連携を目指しながら、豊かな心を育む地域社会をつくる。」ことを基本目標としており、継続して開催している研究大会の内容充実によりPTA活動の充実を図ることができた。</p> <p>「広報だて」に家庭教育に関する啓発記事を掲載することにより、広く市民に意識啓発することができた。</p> <table border="1" data-bbox="359 1288 1236 1478"> <thead> <tr> <th rowspan="2">成果指標</th> <th>計画策定時</th> <th colspan="2">実績値</th> </tr> <tr> <th>(H21)</th> <th>H28</th> <th>H30 目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>PTA連合会研究大会における参加人数</td> <td>170人</td> <td>166人</td> <td>100人</td> </tr> </tbody> </table>				成果指標	計画策定時	実績値		(H21)	H28	H30 目標値	PTA連合会研究大会における参加人数	170人	166人	100人
成果指標	計画策定時	実績値												
	(H21)	H28	H30 目標値											
PTA連合会研究大会における参加人数	170人	166人	100人											
<p>《今後の課題と対応方向》</p> <ul style="list-style-type: none"> PTA活動を継続的に実施するために財政的支援を行うことが必要である。 広く市民に意識啓発するためには、「広報だて」を活用した掲載を継続することが必要である。 地域ボランティアの参画による「地域の教育力向上」を図るため、コミュニティスクールの全校導入や、伊達西小で今年度から開設した放課後子ども教室の実施校拡大について検討を進める。 														

取り組むべき主な施策	図書館機能の充実	達成度の評価	B
推 進 方 策	図書館活動の充実		
<p>《事業目的・取組事項》</p> <p>図書資料の充実に努めるとともに、各種事業を積極的に展開し読書普及に努め、図書館ボランティアとの連携により図書館活動の拡充を図る。</p> <p>図書館運営に際し、市民の意見要望等を反映するとともに、コンピューターシステム活用により利用しやすい図書館づくりに努める。</p> <p>学校や自治会との連携により地域へのサービス向上に努める。</p>			
<p>《平成28年度の事業（取組）の概要と実施状況》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民の意見や要望を反映した図書館の運営を行うため、伊達市立図書館あり方検討委員会を開催（計5回）し、今後図書館に求められる役割や機能について提言を受けた。また、伊達市立図書館運営協力会を開催（計5回）し、図書館機能の充実について提言を受けた。 ・図書資料について購入・寄贈により4,041冊の受入及び3,309冊の除籍を行い更新・拡充を図った。これにより蔵書数は121,447冊に増加した。 ・ボランティア団体の協力により、絵本読み聞かせ会、おはなし会、大人も楽しむおはなし会、小学生のためのおはなし会などの行事・イベントを開催したほか、ブックスタート事業、読書感想文・感想画事業及び寄贈図書の小学校巡回事業といった学校・ボランティア団体と連携した事業を展開した。 ・図書館ネットワークサービス広域化事業（室蘭市・登別市との図書館サービス連携）を継続実施した。 			

《平成28年度の評価》

- ・伊達市立図書館あり方検討委員会から提言を受けたことで、市民が求める図書館サービスを把握することができた。
- ・蔵書数が成果指標の120,000冊に達成し、図書資料の充実を図ることができた。
- ・学校・ボランティアとの連携事業を継続したことで、読書活動の推進や図書館の利用を促進することができた。
- ・図書館ネットワークサービス広域化事業を継続したことで、三市の各図書館が所蔵する図書資料の貸出・返却サービス及び図書館情報システムを活用した検索・予約等サービスを提供することができた。
- ・上記のとおり蔵書数が成果指標を上回ったほか、図書館登録者数も14,845人に達し指標の13,000人を上回っているところであるが、年間貸出数が163,635冊と指標の175,000冊を下回っていることから、図書館活動充実のさらなる取組強化が課題となっている。

成果指標	計画策定時 (H21)	実績値	H30 目標値
		H28	
図書館登録者数	9,874人	14,845人	13,000人
蔵書冊数	115,266冊	121,447冊	120,000冊
年間貸出冊数	173,752冊	163,635冊	175,000冊

《今後の課題と対応方向》

- ・伊達市立図書館あり方検討委員会の提言を受けた基本方針の策定
- ・利用者のニーズに合った図書資料の整備
- ・学校・ボランティアと連携した図書館活動の充実
- ・図書館ネットワークサービス広域化事業の継続

取り組むべき主な施策	男女共同参画社会の推進	達成度の評価	A										
推 進 方 策	男女共同参画に関する啓発												
<p>《事業目的・取組事項》</p> <p>男女共同参画社会の形成に向け、家庭や地域における男女共同参画意識の醸成のための啓蒙、啓発に努める。</p>													
<p>《平成28年度の事業（取組）の概要と実施状況》</p> <ul style="list-style-type: none"> 男女共同参画教養講演会（参加者：70名） 「可能性へのチャレンジ～感謝を行動で～」 元サッカー国際女子審判員 大岩 真由美 氏 国際女性デーに合わせパネル展を実施「女性の活躍と地域の活力」 胆振女性リーダー養成研修に2名を派遣（埼玉県国立女性教育会館） 北海道立女性プラザ主催の「女性プラザ祭り2016」に市バスを利用し参加（参加者：20名） 													
<p>《平成28年度の評価》</p> <p>講演会等事業を開催することにより、男女共同参画社会の意識向上が図られた。 女性国内派遣研修事業では、女性リーダーの人材育成に寄与でき、受講した研修や知識を地域活動に活かすことができた。</p> <table border="1" data-bbox="359 1099 1235 1294"> <thead> <tr> <th rowspan="2">成果指標</th> <th rowspan="2">計画策定時 (H21)</th> <th colspan="2">実績値</th> </tr> <tr> <th>H28</th> <th>H30 目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>男女共同参画推進 講座受講者数</td> <td>17人</td> <td>70人</td> <td>45人</td> </tr> </tbody> </table>				成果指標	計画策定時 (H21)	実績値		H28	H30 目標値	男女共同参画推進 講座受講者数	17人	70人	45人
成果指標	計画策定時 (H21)	実績値											
		H28	H30 目標値										
男女共同参画推進 講座受講者数	17人	70人	45人										
<p>《今後の課題と対応方向》</p> <ul style="list-style-type: none"> 男女共同参画社会をより一層推進するために、関係団体と連携が必要である。 講演会等の参加者が固定化している傾向にあり、若い世代にも共感を呼ぶような内容で年齢層の拡大を図ることが必要である。 平成27年度より、女性国内派遣研修について三市合同事業から胆振教育局主催の胆振管内女性リーダー養成研修に移行したが、これからも研修参加者の確保が必要である。 													

(3) 芸術文化

⑦個性あふれ、潤いのある地域文化の創造

取り組むべき主な施策	芸術・文化活動の充実	達成度の評価	B											
推進方策	鑑賞機会の提供													
<p>《事業目的・取組事項》</p> <p>優れた芸術文化の鑑賞機会を確保するため、演劇、音楽などの舞台鑑賞、絵画、書道等の展示の機会を提供する。</p>														
<p>《平成28年度の事業（取組）の概要と実施状況》</p> <p>◎市が主催・共催の芸術公演鑑賞者数（総数5,450名）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童・生徒に優れた舞台芸術の鑑賞機会を提供するため巡回小劇場事業を実施した <ul style="list-style-type: none"> 小学生低学年対象：音楽パフォーマンス「イキイキわくわく音楽会」（922名） 小学生高学年対象：劇団四季社会貢献活動 ミュージカル「エルコスの祈り」（937名） 中学校対象：音楽「クラシックってすばらしい！本物を学ぼうコンサート」（953名） ・西いぶり定住自立圏文化事業の開催 <ul style="list-style-type: none"> 古典芸能「文楽公演」（開催地：登別市 479名） ・文化関係団体との連携による事業の実施として、NPO法人伊達メセナ協会との共催による芸術文化鑑賞機会の提供 <ul style="list-style-type: none"> 一青窈「一青窈TOUR2016 人と歌～折々」（858名） 「癒しの空間～音楽とともに～」（188名） 宝くじ文化公演「ザ・フルーツ」（456名） トム・プロジェクト「挽歌」（361名） 第57回北海道書道展 伊達移動展（296名） <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">成果指標</th> <th>計画策定時</th> <th>実績値</th> <th>H30</th> </tr> <tr> <th>(H21)</th> <th>H28</th> <th>目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>芸術公演鑑賞者数</td> <td>3,594人</td> <td>5,450人</td> <td>6,000人</td> </tr> </tbody> </table>				成果指標	計画策定時	実績値	H30	(H21)	H28	目標値	芸術公演鑑賞者数	3,594人	5,450人	6,000人
成果指標	計画策定時	実績値	H30											
	(H21)	H28	目標値											
芸術公演鑑賞者数	3,594人	5,450人	6,000人											
<p>《平成28年度の評価》</p> <p>巡回小劇場は、主催事業として開催することにより、小中学生が生の舞台公演の素晴らしさを実感でき貴重な体験となった。特に小学生高学年の劇団四季による演劇公演であったことから、更に良質な舞台公演体験となった。</p> <p>西いぶり定住自立圏文化事業は、関係市町との連携により古典芸能を提供することができた。定期的な舞台公演は、市民が楽しみにしており芸術文化を鑑賞することが定着してきている。</p>														
<p>《今後の課題と対応方向》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定期的、安定的に舞台公演を実施するには、文化団体等に財政的支援の継続が必要である。 ・市民ニーズの把握方法等について更なる検討を行う必要がある。 														

取り組むべき主な施策	市民による創造型文化活動の推進	達成度の評価	B										
推 進 方 策	文化活動の振興												
<p>《事業目的・取組事項》</p> <p>市民の文化活動への参加意欲の向上、自らが企画・運営する体制づくりを支援し、地域文化の創造と文化活動を担う人材の育成をめざす。</p>													
<p>《平成28年度の事業（取組）の概要と実施状況》</p> <p>◎市民総合文化祭と市民サークル祭りの参加団体数：52団体</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伊達市文化協会との共催により市民総合文化祭を開催、文化関係38団体が参加 ・サークル活動等の育成、発表の場の提供として、実行委員会形式による市民サークルまつりを実施した。（14団体、出展人数：194名、来場者：693名） ・文化芸術団体活動への支援として、伊達市文化協会、NPO法人伊達メセナ協会、総合企画FMAへの財政支援の実施 ・伊達市芸術文化表彰規則に基づき、芸術文化賞1名・1団体、芸術文化奨励賞を4名に授与 ・カルチャーセンターエントランスホールを無料開放し、小規模文化サークル（愛好会、団体）等の作品展示を行っている。 													
<p>《平成28年度の評価》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伊達市文化協会等への財政的支援により、自主的な文化活動が図られた。 ・市民サークル祭りにおいて、市民が直接企画運営を担うことにより、体験ブースを設けるなど文化活動への参加意欲を喚起することができた。 <table border="1" data-bbox="347 1285 1241 1458"> <thead> <tr> <th rowspan="2">成果指標</th> <th rowspan="2">計画策定時 (H21)</th> <th colspan="2">実績値</th> </tr> <tr> <th>H28</th> <th>H30 目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>市民文化祭参加団体数</td> <td>47団体</td> <td>38団体</td> <td>45団体</td> </tr> </tbody> </table>				成果指標	計画策定時 (H21)	実績値		H28	H30 目標値	市民文化祭参加団体数	47団体	38団体	45団体
成果指標	計画策定時 (H21)	実績値											
		H28	H30 目標値										
市民文化祭参加団体数	47団体	38団体	45団体										
<p>《今後の課題と対応方向》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文化関係団体が安定的に活動できるよう助言や支援を行う。 													

⑧芸術・文化のひとづくり・環境づくりの推進

取り組むべき主な施策	芸術家の育成	達成度の評価	C								
推 進 方 策	指導環境の充実										
<p>《事業目的・取組事項》</p> <p>人材の発掘と活動拠点であるアートビレッジ文化館の施設整備に努める。 芸術文化に対する理解を深めるため、美術展や文化講演会など芸術文化に触れる機会の提供に努める。</p>											
<p>《平成28年度の事業（取組）の概要と実施状況》</p> <p>◎成果目標値：画家育成コース20名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 絵画分野の人材育成を目的として11年目を迎えた『絵画教室』を54日間開設（受講者47名 ※うち、画家育成コース13名） ・ 今年よりリアリズム絵画セミナー（全4回）を開催（受講者 のべ39名） ・ 音楽分野の人材育成を目的として10目を迎えた『伊達音楽アカデミー（マスタークラス）』を2日間開催（受講者6名） 											
<p>《平成28年度の評価》</p> <p>文化を支える人材育成の推進のため、国際的に活躍する講師陣の協力をいただき、高度な育成事業を実施することができた。</p> <table border="1" data-bbox="359 1146 1233 1339"> <thead> <tr> <th rowspan="2">成果指標</th> <th>計画策定時 (H21)</th> <th>実績値 H28</th> <th>H30 目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>絵画教室受講者数 (画家育成コース)</td> <td>13人</td> <td>13人</td> <td>20人</td> </tr> </tbody> </table>				成果指標	計画策定時 (H21)	実績値 H28	H30 目標値	絵画教室受講者数 (画家育成コース)	13人	13人	20人
成果指標	計画策定時 (H21)	実績値 H28	H30 目標値								
	絵画教室受講者数 (画家育成コース)	13人	13人	20人							
<p>《今後の課題と対応方向》</p> <p>幅広い芸術文化に触れられる移動美術展などについて検討を行う。 講師やセミナー（教室）会場などを安定的に確保するための検討を行う。</p>											

取り組むべき主な施策	受託美術品等の保管と有効活用	達成度の評価	C								
推 進 方 策	受託美術品等の保管と有効活用										
<p>《事業目的・取組事項》</p> <p>寄託制度等について周知を図るとともに、地元作家に関する情報を発信する。</p> <p>受託品を良好な状態で保管するため、保管場所の整備を図るとともに、受託品等の有効活用・公開に向け、関係機関、文化団体等との連携を図る。</p>											
<p>《平成28年度の事業（取組）の概要と実施状況》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 寄贈及び寄託された美術品等の安全な保管及び展示 ・ 寄贈及び寄託された美術品等の専門家による調査 ・ 寄贈及び受託美術品等の安全な保管と保管場所や公共施設における一部展示 ・ 北海道立近代美術館の協力を得て、美術品等の調査 											
<p>《平成28年度の評価》</p> <p>寄贈および受託作品の保管場所（アートビレッジ文化館内及びカルチャーセンター）において、展示ケース（ガラスケース）等を活用し、展示・紹介することができた。</p> <table border="1" data-bbox="359 1010 1235 1205"> <thead> <tr> <th rowspan="2">成果指標</th> <th>計画策定時 (H21)</th> <th>実績値 H28</th> <th>H30 目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>受託美術品等を一般公開する割合</td> <td>10%</td> <td>10%未満</td> <td>30%</td> </tr> </tbody> </table>				成果指標	計画策定時 (H21)	実績値 H28	H30 目標値	受託美術品等を一般公開する割合	10%	10%未満	30%
成果指標	計画策定時 (H21)	実績値 H28	H30 目標値								
	受託美術品等を一般公開する割合	10%	10%未満	30%							
<p>《今後の課題と対応方向》</p> <p>だて歴史文化ミュージアムの開館後における展示活用について検討を進める。</p> <p>シャーマンコレクションの一般公開に向けての検討を進める</p> <p>上記に関連し、シャーマンコレクションの図録を作成する。</p>											

⑨歴史・文化を活かしたまちづくりの推進

(1) 取り組むべき主な施策	文化財の展示保管環境の整備	達成度の評価	B										
推 進 方 策	文化財の展示保管環境の整備												
<p>《事業目的・取組事項》</p> <p>伊達市開拓記念館は、老朽化により展示物への影響が懸念されており、文化財を良好な状態で展示保管できるよう施設整備を行う必要がある。また、市民の「生きがい」につながる各種ソフト事業を展開する新しいタイプの施設づくりを推進する必要がある。そのため、だて歴史文化ミュージアム（旧称：伊達市総合文化館）の建設を行うとともに、オープン後の利用方法などを事前に周知する活動を行う。</p>													
<p>《平成28年度の事業（取組）の概要と実施状況》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・だて歴史文化ミュージアムの整備と検討委員会の開催 ・だて歴史文化ミュージアムスタートアップ講演会（60名）の実施 ・文化財（甲冑）の修理 ・開拓記念館の管理運営（来館者数：5,581人） ・埋蔵文化財収蔵庫整備事業の実施 													
<p>《平成28年度の評価》</p> <p>だて歴史文化ミュージアムの建築工事に着手し、施工監理を適切に行うことにより、文化財の保存環境を良好に保つための躯体を完成させることができた。</p> <p>また、伊達市噴火湾文化研究所内の改修を行い、整理作業室を整備したことで埋蔵文化財の保管環境の機能が向上した。</p> <p>さらに、ミュージアムのメイン展示物となる甲冑1点を修理したことで、貴重な文化財を保存し、活用の道を開いた。</p> <table border="1" data-bbox="359 1512 1236 1702"> <thead> <tr> <th rowspan="2">成果指標</th> <th rowspan="2">計画策定時 (H21)</th> <th colspan="2">実績値</th> </tr> <tr> <th>H28</th> <th>H30 目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>伊達市開拓記念館 の入館者数</td> <td>8,574人</td> <td>5,581人</td> <td>20,000人</td> </tr> </tbody> </table>				成果指標	計画策定時 (H21)	実績値		H28	H30 目標値	伊達市開拓記念館 の入館者数	8,574人	5,581人	20,000人
成果指標	計画策定時 (H21)	実績値											
		H28	H30 目標値										
伊達市開拓記念館 の入館者数	8,574人	5,581人	20,000人										
<p>《今後の課題と対応方向》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ミュージアムの平成30年秋以降の開館に向けて、建物の内装工事の施工監理とともに、展示計画の策定、運営方針・体制の整備等を行う必要がある。 													

取り組むべき主な施策	文化財の保存と積極的活用	達成度の評価	B										
推 進 方 策	文化財の保存と積極的活用												
<p>《事業目的・取組事項》</p> <p>先人より受け継いだ文化財は市民共有の財産であり、適正に保存し活用を図りながら次代へ継承していく必要がある。</p> <p>そのため、特別展や体験学習イベントなどを開催するとともに、市民や団体の各種イベントにも積極的に支援することにより、市民や観光客に対して本市の豊かな文化財をPRする。</p> <p>また、文化財の調査研究を進め、郷土史研究や市民の学習に広く活用する。</p>													
<p>《平成28年度の事業（取組）の概要と実施状況》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・埋蔵文化財および武家文化財の保存と積極的な活用 ・イベント・体験学習などのソフト事業の実施 ・「オコンシベの会」^{註1}と連携し、北黄金貝塚のガイドと体験学習を実施（来園者数：11,681名） ・史跡北黄金貝塚公園で「縄文ロビー講座」（のべ96名）、「だて噴火湾縄文まつり」（420名）を開催 ・迎賓館で「くわの会」^{註2}による解説、「21世紀市民プロジェクト“ミュゼ”」^{註3}による七夕イベント（100名）、淡交会による呈茶会を開催 													
<p>《平成28年度の評価》</p> <p>史跡北黄金貝塚公園では来訪者が1万人を超えているほか、多様なイベントの実施は国や他の自治体から史跡活用の先進事例として評価されている。</p> <p>平成25年度に改修した迎賓館では、来館者への解説と市民主催のイベントを実施することにより、市民に文化財の価値と魅力を伝えることができた。</p> <table border="1" data-bbox="359 1243 1236 1433"> <thead> <tr> <th rowspan="2">成果指標</th> <th>計画策定時</th> <th>実績値</th> <th rowspan="2">H30 目標値</th> </tr> <tr> <th>(H21)</th> <th>H28</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>北黄金貝塚公園 利用者数</td> <td>14,304人</td> <td>11,681人</td> <td>15,000人</td> </tr> </tbody> </table>				成果指標	計画策定時	実績値	H30 目標値	(H21)	H28	北黄金貝塚公園 利用者数	14,304人	11,681人	15,000人
成果指標	計画策定時	実績値	H30 目標値										
	(H21)	H28											
北黄金貝塚公園 利用者数	14,304人	11,681人	15,000人										
<p>《今後の課題と対応方向》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・解説ボランティア団体の高齢化が進んでおり、新規会員を増やすことが課題である。 ・復元住居と情報センターの壁面、舗装道路が経年劣化しており、維持補修が課題である。 													

註1 オコンシベの会：史跡北黄金貝塚におけるガイド団体

註2 くわの会：市指定有形文化財迎賓館におけるガイド団体

註3 21世紀市民プロジェクト“ミュゼ”：伊達市開拓記念館と新たな博物館づくりについて考える市民団体

取り組むべき主な施策	指定文化財の保護対策と指定化の推進	達成度の評価	C									
推 進 方 策	指定文化財の保護対策と指定化の推進											
<p>《事業目的・取組事項》</p> <p>国・道・市指定の文化財の保存と維持管理については計画的に進める必要がある。また、未指定の文化財で重要なものについては積極的な指定により共有の財産の保護を行う必要がある。</p> <p>そのため、国・道の補助制度を有効に利用して重要文化財の保護に努める。また、市指定文化財の計画的な巡回監視、調査により保護・保存に必要な措置を講ずる。</p>												
<p>《平成28年度の事業（取組）の概要と実施状況》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市内の指定文化財の保護対策と維持管理の実施 ・有珠モシリ遺跡、若生貝塚、旧伊達邸跡（伊達市開拓記念館庭園）の指定化の推進 ・指定文化財指定地の草刈りによる保全を実施 ・各種掘削を伴う工事から埋蔵文化財を保護するため、事前協議・試掘調査を実施 ・旧伊達邸跡の国史跡化へ向けて関係機関との協議を実施 ・若生貝塚の発掘調査により国史跡化へ向けた基礎データの収集を実施 ・市指定記念物ニレの木（舟岡町）の剪定 												
<p>《平成28年度の評価》</p> <p>有珠モシリ遺跡については進展がない。</p> <p>若生貝塚は3年間の発掘調査を終えて遺跡の概要を捉えることができ、将来の国指定史跡化に向けた材料を得ることができた。</p> <p>旧伊達邸跡は古文書の調査成果を文化庁に示すことができ、やや進展している。</p> <table border="1" data-bbox="349 1193 1243 1368"> <thead> <tr> <th rowspan="2">成果指標</th> <th rowspan="2">計画策定時 (H21)</th> <th>実績値</th> <th rowspan="2">H30 目標値</th> </tr> <tr> <th>H28</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>国指定史跡の指定件数</td> <td>2件</td> <td>0件</td> <td>3件</td> </tr> </tbody> </table>				成果指標	計画策定時 (H21)	実績値	H30 目標値	H28	国指定史跡の指定件数	2件	0件	3件
成果指標	計画策定時 (H21)	実績値	H30 目標値									
		H28										
国指定史跡の指定件数	2件	0件	3件									
<p>《今後の課題と対応方向》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・旧伊達邸跡の国指定化へ向けて、引き続き文化庁への働きかけを行う必要がある。 ・史跡化の過程で現開拓記念館庭園内での火気使用の制限が課題である。 ・史跡指定に向けた測量調査・発掘調査（国庫補助事業）の計画策定が必要。 												

取り組むべき主な施策	広域的な文化資源の活用の推進	達成度の評価	A									
推 進 方 策	縄文文化の調査研究の推進											
<p>《事業目的・取組事項》</p> <p>噴火湾沿岸地域は日本有数の貝塚研究のフィールドであり、近年の発掘調査でも新たな出土品や人骨が発見されている。また、青森県・秋田県・岩手県・北海道と連携し、「北海道・北東北の縄文遺跡群」を世界文化遺産へ登録する活動を行っている。そのため、関連自治体や研究機関と連携した文化資源の活用への取り組みが必要である。</p>												
<p>《平成28年度の事業（取組）の概要と実施状況》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北海道・北東北の縄文遺跡群の世界遺産登録推進 ・縄文文化の調査研究と成果の還元への推進 ・北海道内の27自治体を対象とした「北海道縄文のまち連絡会」の事務局として事業を実施 ・文化財の活用と人材育成を目的とした動物考古学セミナーを実施（22名） ・北海道博物館と連携した遺跡の発掘調査と市民向けのシンポジウムを開催（60名） ・各種の市民啓発イベントを実施した（計20回） 												
<p>《平成28年度の評価》</p> <p>縄文遺跡群の世界文化遺産登録のための推薦書案を改定し、ユネスコ推薦への準備を整えた。</p> <p>また、道内の自治体や旅行業者と連携して遺跡を巡るスタンプラリーやバスツアー、札幌市でのイベント（約9,000人）を実施し、調査成果の還元と文化資源のPRをすることができた。</p> <p>さらに、動物考古学セミナーは全国から考古学専攻の学生や、骨に関心のある芸術関係者が参加しており、人材育成に貢献できた。なお、参加者への満足度調査では90%が満足と回答している。</p> <table border="1" data-bbox="359 1243 1236 1415"> <thead> <tr> <th rowspan="2">成果指標</th> <th rowspan="2">計画策定時 (H21)</th> <th>実績値</th> <th rowspan="2">H30 目標値</th> </tr> <tr> <th>H28</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>市民啓発イベント数</td> <td>19件</td> <td>20件</td> <td>20件</td> </tr> </tbody> </table>				成果指標	計画策定時 (H21)	実績値	H30 目標値	H28	市民啓発イベント数	19件	20件	20件
成果指標	計画策定時 (H21)	実績値	H30 目標値									
		H28										
市民啓発イベント数	19件	20件	20件									
<p>《今後の課題と対応方向》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界遺産の登録に向けた機運の醸成のためのさらなるPRが必要。 												

(4) スポーツ振興

⑩スポーツ・レクリエーション活動の振興

取り組むべき主な施策	スポーツ活動の促進	達成度の評価	A
推 進 方 策	スポーツ活動の場・機会の確保、スポーツ指導体制の整備促進		
《事業目的・取組事項》 各種体力づくり団体、スポーツ団体及びニュースポーツの紹介を行い、団体による各種スポーツ教室の普及促進に努める。 レクリエーションスポーツから競技スポーツまで幅広い活動を支えるため、指導者の確保、養成、団体育成を促進する。			
《平成28年度の事業（取組）の概要と実施状況》 1. 概要 ・ ニュースポーツ出前講習や大会の開催、スポーツ少年団活動の促進、学校開放事業の推進 ・ 各種スポーツ団体の連携強化、指導者の育成 2. 実施状況 ・ 伊達市体育協会道南スコール共同企業体やスポーツ推進委員会などとの連携のもと、「ヨガ教室」「種目別（卓球・硬式テニス・夏休み小学生水泳・パークゴルフ・フロアカーリング・スキー）初心者スポーツ講習会」「ふまねっと運動出前講座（12カ所）」「ノルディックウォーキング教室」等各種教室を開催。 ・ 「父ちゃん野球大会」「フルムーンパークゴルフ大会」「トリムバレーボール大会」等を開催 ・ スポーツ少年団やスポーツ団体、地域体育振興会の活動、管内スポーツフェスタ参加等への財政的支援を行うとともに、「市民スポーツ賞」（13個人、6団体）及び「市民体力づくり運動功績者行賞」（15名）の表彰を実施 ・ 市内小学校、中学校施設（体育館及びグラウンド）の開放事業を実施（星の丘小中学校を除く） ・ 各種スポーツ団体が連携・協力し「春一番伊達ハーフマラソン」「ノルディックウォーキング大会」「スキーマラソン大会」などを実施 ・ スポーツ少年団ジュニア・リーダー研修会やスポーツリーダー養成講習会などへの派遣、指導者・育成母集団合同研修会などを実施			

《平成28年度の評価》

年齢や体力、健康志向等に応じた各種スポーツの機会を提供と、青少年や地域のスポーツ活動の普及促進を図ることができた。

各種大会等の実施にあたっては、各種スポーツ関係団体との協力が不可欠であり、その連携のもとで事業が展開された。また、各種スポーツ団体においては、講習会への派遣や研修会を実施し、指導者等の育成、資質の向上に資することができた。

※スポーツ教室開催数 17種目、24教室実施

成果指標	計画策定時 (H21)	実績値	H30 目標値
		H28	
スポーツ教室数	16教室	24教室	20教室

《今後の課題と対応方向》

- ・温水プールやトレーニング室のみならず施設の有効活用へ向け幅広い年齢層を対象とした各事業を実施する。
- ・健康意識の高揚を図り、ニュースポーツの普及や各種スポーツ・レクリエーションを楽しめる機会と活動環境の整備・充実を図る。
- ・スポーツ・レクリエーションの各種目に対応した指導力の向上と指導者の育成を行う。

取り組むべき主な施策	スポーツ施設の整備・充実	達成度の評価	A									
推 進 方 策	スポーツ施設の整備、スポーツ施設運営の充実											
<p>《事業目的・取組事項》</p> <p>体育館、プール・トレーニング室、館山野球場及びパークゴルフ場などを計画的に整備するとともに、日常的に活動できる施設の確保に努める。</p> <p>施設の管理にあたり指定管理者制度を導入し、市民の利用形態に応じた利用時間や施設の提供について弾力的な運用を行い、利便性の向上に努める。</p>												
<p>《平成28年度の事業（取組）の概要と実施状況》</p> <p>1. 概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画的な施設の整備 ・指定管理者との連携強化 ・利便性向上のための施設の弾力的運用の推進 <p>2. 実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・B&G海洋センターパークゴルフコースの改修 ・総合体育館駐車場の拡張工事の実施 ・平成28年度から伊達市体育協会道南スコール共同企業体として、総合体育館、プール、体育施設（武道館、関内PG場、館山球場等）の指定管理を一本化した。 												
<p>《平成28年度の評価》</p> <p>総合体育館、プールの指定管理を一本化することで、指定管理者間（体協・スコール）の連携が高まりつつあり、今後の新しい展開が期待される。</p> <p>※体育施設等ののべ利用者数 443,395人</p> <table border="1" data-bbox="359 1243 1236 1433"> <thead> <tr> <th rowspan="2">成果指標</th> <th rowspan="2">計画策定時 (H21)</th> <th>実績値</th> <th rowspan="2">H30 目標値</th> </tr> <tr> <th>H28</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>スポーツ施設等のべ利用者数</td> <td>222,262人</td> <td>443,395人</td> <td>400,000人</td> </tr> </tbody> </table>				成果指標	計画策定時 (H21)	実績値	H30 目標値	H28	スポーツ施設等のべ利用者数	222,262人	443,395人	400,000人
成果指標	計画策定時 (H21)	実績値	H30 目標値									
		H28										
スポーツ施設等のべ利用者数	222,262人	443,395人	400,000人									
<p>《今後の課題と対応方向》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・既存施設の計画的な改修及び備品等の更新計画作成に向けた検討が必要 ・温水プール&トレーニング室、総合体育館全体の利用者数は25万人を超えているものの、より多くの方に利用し続けてもらえる魅力ある施設となるよう指定管理者と連携を図る必要がある。 												

(5) 達成度の評価一覧

章 節	事業	成果指標	目標値	計画策定時	達成状況	H28	H29	担当
「伊達市教育教育振興基本計画」に基づく管理及び執行状況の評価								
1.学校教育								
第1節 社会で生きる実践的な力の育成								
	1.確かな学力の向上をめざす教育の推進	授業がよくわかると答えた児童生徒の割合	小学校:国語95.0%/算数85.0% 中学校:国語95.0%/数学80.0%	小学校:国語75.0%/算数73.6% 中学校:国語72.2%/数学59.7%	小学校:国語79.7% 小学校:算数79.0% 中学校:国語80.9% 中学校:算数70.6%	B	B	指導室
	2.特別支援教育の充実	個別の教育支援計画、指導計画を策定している学校の割合	小学校:100% 中学校100%	小学校100% 中学校60%	小学校:100% 中学校:100%	A	A	指導室
	3.情報教育の充実	コンピュータ1台当たりの児童生徒数	小学校8.0人 中学校9.0人	小学校12.6人 中学校8.0人	小学校:11.4人 中学校:6.8人	B	B	指導室
	4.環境教育の推進	教科の学習以外において環境教育に取り組んでいる学校の割合	小学校100.0% 中学校50.0%	小学校70.0% 中学校14.3%	小学校:100% 中学校:100%	A	A	指導室
	5.キャリア教育の推進	「将来の夢や目標を持っている」と回答した児童生徒の割合	小学校95.0% 中学校80.0%	小学校89.6% 中学校70.0%	小学校:79.4% 中学校:63.1%	C	C	指導室
	6.国際理解教育の充実	英語の授業における英語指導助手の派遣回数	小学校300回、中学校200回	小学校103回、中学校293回	小学校:240回、中学校:216回	B	B	学校教育係
	7.社会の変化に応じた高等学校教育の推進	市内高等学校への進学率	60.0%	54.4%	53.4%	C	C	企画総務係
第2節 豊かな心と健やかな体の育成								
	1.幼稚園教育の充実	小学校との交流活動、公開保育回数	H26年度末でさくら幼稚園閉園により 目標設定なし	5回		—	—	企画総務係
	2.豊かな心を育む教育の推進	人が困っているときは進んで助けていると答えた児童生徒の割合	小学校 80.0%、中学校 80.0%	小学校 75.0% 中学校 71.6%	小学校:84.1% 中学校:76.6%	A	B	指導室
	3.健やかな体を育てる教育の推進	スポーツをすることが好きと答えた児童生徒の割合	小学校 95.0% 中学校 95.0%	小学校 76.4%、中学校 84.6%	小学校:90.7% 中学校:84.8%	B	B	指導室
	4.体験的な学習・活動の充実	総合的な学習の時間において地域の人材や自然環境など教育資源を活かした授業の割合	小学校 40.0% 中学校 30.0%	小学校 21.4% 中学校 14.7%	小学校:36.4% 中学校:27.5%	B	B	指導室
	5.食育・健康教育の充実	朝食を毎日食べている児童生徒の割合	小学校 100% 中学校 100%	小学校 96.5% 中学校 94.4%	小学校:91.5% 中学校:90.8%	C	C	学校教育係
	6.生徒指導・教育相談の充実	不登校児童生徒の割合	不登校児童生徒がいなくなる	小学校 0.3% 中学校 2.9%	小学校:0.4% 中学校:2.3%	B	B	指導室
		いじめにあった児童生徒の割合	いじめがなくなる	小学校 1.8% 中学校 0.5%	小学校:8.4% 中学校:0.1%			
第3節 信頼される学校づくりの推進								
	1.開かれた学校づくりの推進	学校を支援する地域組織を設置している学校の割合	小学校 100% 中学校 60.0%	小学校 40.0% 中学校 28.6%	小学校:100% 中学校:60%	A	A	指導室
		学校評議員を設置している学校の割合	小学校 100% 中学校 100%	小学校 90.0% 中学校 85.7%	小学校:100% 中学校:100%			
	2.特色ある学校づくりの推進	総合的な学習の時間において地域の人材や自然環境など教育資源を活かした授業の割合	小学校 40.0% 中学校 30.0%	小学校 21.4% 中学校 14.7%	小学校:36.4% 中学校:27.5%	B	B	指導室
	3.学校間の連携・接続の推進	小中学校間での授業研究会、参観日を実施している学校の割合	小学校 100% 中学校 100%	小学校 40.0% 中学校 85.7%	小学校:100% 中学校:100%	A	A	指導室
	4.教職員の資質向上	教育実践交流・研修会に参加した教員の割合	80.0%	27.6%	63.3%	B	B	指導室
第4節 安全・安心な教育環境づくりの推進								
	1.耐震化、防災機能の充実	耐震化率	小学校 75.0% 中学校 100%	小学校 40.0% 中学校 92.0%	小学校:72.0% 中学校:100.0%	B	B	企画総務係
	2.学校の安全対策の充実	スクールガードリーダーの巡回指導回数	88回	24回	88回	A	A	学校教育係
	3.少子化に対応した学校適正配置の推進	学校数	小学校 10校 中学校4校	小学校10校 中学校7校	小学校:10校、中学校:4校	B	A	学校教育係

章 節	事業	成果指標	目標値	計画策定時	達成状況	H28	H29	担当
2.社会教育								
第1節 ふるさと意識を育て地域づくりに参加する青少年教育の推進								
	1.心を育む体験活動の推進	青少年教育事業への参加者数	400人	947人	324人	A	B	青少年体育係
	2.青少年団体活動の推進	北海道などが主催する各種リーダー養成講習会及び姉妹都市・歴史友好都市シニアリーダー研修交流会参加者数	7人	6人	8人	A	A	青少年体育係
第2節 主体的な地域活動を推進するためのひとづくり・地域づくりの推進								
	1.生涯にわたる充実した学習機会の提供	市民講座・市民カレッジの受講者数	300人	308人	411人	A	A	社会教育係
	2.高齢者が健やかで豊かに学ぶ機会の創出	長生大学学生数	300人	263人	242人	B	B	社会教育係
	3.家庭・地域の教育力の向上	PTA連合会研究大会における参加人数	100人	170人	166人	A	A	社会教育係
	4.図書館機能の充実	図書館登録者数	13,000人	9,874人	14,845人	B	B	図書館
		蔵書冊数	120,000冊	115,266冊	121,447冊			
		年間貸出冊数	175,000冊	173,752冊	163,635冊			
	5.男女共同参画社会の推進	男女共同参画推進講座受講者数	45人	17人	70人	A	A	社会教育係
3.芸術文化								
第1節 個性あふれ、潤いのある地域文化の創造								
	1.芸術・文化活動の充実	芸術公演鑑賞者数	6,000人	3,594人	5,450人	A	B	社会教育係
	2.市民による創造型文化活動の推進	市民文化祭参加団体数	45団体	47団体	38団体 会員の高齢化等により市民文化祭の参加団体は減少しつつあるが、市民サークル祭については、参加団体数、来場者とも増加している。	B	B	社会教育係
第2節 芸術・文化のひとづくり・環境づくりの推進								
	1.芸術家の育成	絵画教室受講者数(画家育成コース)	20人	13人	13人	C	C	社会教育係
	2.受託美術品等の保管と有効活用	受託美術品等を一般公開する割合	30%	10%	10%未満	C	C	社会教育係
第3節 歴史と文化を活かしたまちづくりの推進								
	1.文化財の展示保管環境の整備	伊達市開拓記念館の入館者数	20,000人	8,574人	5,581人 入館者は減少しつつあるが、平成30年開館予定の新施設での目標達成に向けて準備は進んでいる。	B	B	文化財係
	2.文化財の保存と積極的活用	北黄金貝塚公園利用者数	15,000人	14,304人	11,681人 利用者の数は目標に達していないが、記念館と迎賓館を含め、文化財の積極的な活用によるイベントの実施により、文化財の価値と魅力を伝えている。	B	B	文化財係
	3.指定文化財の保護対策と指定化の推進	国指定史跡の指定件数	3件	2件	0件	C	C	文化財係
	4.広域的な文化資源の活用の推進	市民啓発イベント数	20件	19件	20件	A	A	文化財係
4.スポーツ振興								
第1節 スポーツ・レクリエーション活動の振興								
	1.スポーツ活動の促進	スポーツ教室数	20教室	16教室	24教室	B	A	青少年体育係
	2.スポーツ施設の整備・充実	スポーツ施設等のべ利用者数	400,000人	222,262人	443,395人	A	A	青少年体育係

4 外部評価

平成29年度（平成28年度対象）教育委員会事務の管理及び執行の状況についての点検及び評価にあたって、客観性を確保するため、点検評価の方法や結果などについて学識経験を有する者の意見を聴きました。

(1) 学識経験者

(敬称略)

氏名	所属等
成田 浩 司	伊達市校長会会長（伊達市立伊達小学校長）
青木 一 也	伊達市PTA連合会会長（伊達市立有珠小学校PTA会長）
小林 浩 路	伊達市社会教育委員の会議長

(2) 主な意見

平成29年度（平成28年度対象）教育委員会点検・評価報告に関する意見

成田 浩 司

1 教育委員会の活動状況

教育委員会会議について、定例会においては各委員の高い関心と問題意識のもと、教育に関する様々な案件について検討・議決されていることと思う。

これまで協議が重ねられてきた「伊達市いじめ防止基本方針」が、平成28年11月に策定されたことを受けて、学校、家庭、地域住民、行政その他の関係者の連携協力の下、地域総がかりでいじめ問題を克服したいと考える。また、学校訪問や伊達市教育実践交流・研修会視察は、本市における学校教育の現状を把握する上で、大変重要なことと考えるので、今後の更なる充実に期待する。

2 「伊達市教育振興基本計画」に基づく管理及び執行状況の評価

(1) 学校教育

① 社会で生きる実践的な力の育成

伊達市学力テストの実施は、学力向上に向けた教育課程の編成・実施・評価、学習指導の工夫改善、授業改善につながる評価の充実を図る上で、大変効果的である。個別の学力到達状況を把握し、実態に応じた指導を可能にする。また、実施結果をもとに、各校では学力・学習改善プランを作成し、例年、検証・改善に取り組んでいるところである。今後は、教頭及び教務主任等を核として、「伊達市学力向上検討委員会」（仮称）を立ち上げる等、市全体としての取組に期待したい。

特別支援教育の充実については、一貫した支援のための幼稚園・保育所、学校、医療機関、行政機関の連携が図られ、教育的ニーズに適切に対応している。各校に

支援員 17 名、介護員 18 名が配置され、配慮を要する児童生徒に手厚い対応がなされている。今後はますます、通常学級に在籍しながら配慮を要する児童生徒の増加が予想されるので、支援員数・介護員数の現状維持に期待するところである。

情報教育の充実については、情報活用能力の育成、情報モラル向上の指導がなされていることは大切なことである。新しい学習指導要領においては、ますます情報活用能力が重視され、プログラミング教育が位置付けられることから、情報教育設備の充実が課題と考えられる。

キャリア教育については、各校が作成した全体計画に基づいて、実践がなされているところである。今後は、学校で学ぶことと社会とのつながりを児童生徒に意識させ、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を身に付けることができるように、より一層の充実を図らなければならない。

②豊かな心と健やかな体の育成

豊かな心を育む教育の推進については、各校で道徳教育全体計画や道徳の時間の年間指導計画の見直しが行われていることはよいことである。平成 30 年から先行実施される教科道徳について、「考え、議論する」授業のあり方とともに、評価についても理解を深めたいところである。各校の道徳教育推進教師を中心とした計画的な研修に期待するところである。

健やかな体を育てる教育の推進については、全国体力・運動能力、運動習慣等調査や体力テストの結果をもとに、全ての学校で「体力向上プラン」を作成し、体力・運動能力向上に向けた指導が、確実に成果を上げてきている。更なる取組の充実を期待する。

体験的な学習・活動の充実については、地域人材や教育資源の活用実績が着実に伸びてきている。キャリア教育を充実させる視点からも、今後、ますます学校の教育活動全体を通じた体験的な学習・活動の実施に期待するところである

食育・健康教育の推進については、栄養教諭による食育指導が効果的であることから、更に浸透させたい。また、アレルギー対応については、全学校対象の研修としてエピペン実習が実施されていることは大切なことである。今後は、朝食のあり方に関する保護者啓発をどのように図るかが課題である。

生徒指導・教育相談の充実については、伊達市いじめ防止基本方針の策定により、地域社会総がかりでいじめの未然防止や早期発見・早期解決に取り組むことが重要である。

③信頼される学校づくりの推進

開かれた学校づくりの推進については、小学校 3 校、中学校 2 校がコミュニティ・スクールを先行導入したことで、次年度の市内全校一斉実施にスムーズにつながったものとする。今後は実のある学校運営協議会の活動に期待する。

学校間の連携・接続の推進については、全ての中学校区で、小学校との学習指導や生徒指導、授業研究の交流が実施されていることは、児童生徒理解を深める上で大きな成果を上げている。幼稚園・保育所と小学校間の引継ぎについては、就学時簡易テストの実施について検討する必要があるのではないかと考える。

④安全・安心な教育環境づくりの推進

耐震化、防災機能の充実について、学校統廃合を見据えた上で、特に老朽化が進んでいる施設・設備を優先的に改修してほしいと考える。

学校の安全対策の充実については、各校の取組はもとより、スクールガードリーダー、通学路パトロールボランティアによる通学路等の巡回指導、伊達市通学路安全推進会議の実施もまた大きな成果を上げているものと考えられる。

(2) 社会教育

⑤ふるさと意識を育て地域づくりに参加する青少年教育の推進

心を育む体験活動の推進については、青少年を対象とした各種事業や研修が行われ、それらへの参加者が前年度比約 100 名減の 324 名であったことから、次年度へ向けた工夫改善が必要である。

⑥主体的な地域活動を推進するためのひとづくり・地域づくりの推進

生涯にわたる充実した学習機会の提供については、市民講座・市民カレッジの受講者数が 400 名を超えたことは、多様なニーズに応じながら、市民の学習意欲を喚起する取組となっているものとする。

高齢者が健やかで豊かに学ぶ機会の創出については、長生大学において、男性学生数の伸びに課題があることから、興味・関心を引くテーマやプログラムの設定、周知方法等に工夫改善が必要であると考えられる。

家庭・地位の教育力の向上については、伊達市 P T A 連合会の活動に対する財政的支援は、P T A 活動の充実を図る上で、大きな役割を果たしているものとする。市全体として、P T A 活動を活性化させるために、継続的な支援及び理解・協力を期待する。また、家庭の教育力向上に資する学習会の実施や情報提供等、若い世代を対象とした取組が望まれる。

図書館機能の充実については、図書館登録者数及び蔵書冊数が指標を上回っていることから、図書館機能を充実させるための環境づくりは整えられているものと考えられる。今後は、貸出冊数増を見込んだ周知活動等に期待するところである。

(3) 芸術文化

⑦個性あふれ、潤いのある地域文化の創造

芸術・文化活動の充実については、児童・生徒に優れた芸術文化を鑑賞させるための貴重な機会として、巡回小劇場事業の実施は大切にしていきたいと考える。

⑧芸術・文化のひとつづくり・環境づくりの推進

受託美術品等の保管と有効活用については、有効な展示方法により、一般公開する割合を伸ばしてほしいと願う。

⑨歴史・文化を活かしたまちづくりの推進

文化財の展示保管環境の整備について、現在建設中の「だて歴史文化ミュージアム」の完成に大きな期待が寄せられるところである。より良好な環境で、市が所有する貴重な文化財を後世に伝えることが可能となる。

文化財の保存と積極的活用については、史跡北黄金貝塚公園における多様なイベントが、史跡活用の先進事例として評価され、来訪者も1万人を超えていることは喜ばしいことである。PR活動の工夫改善により、利用者数の増につながることを期待する。

(4) スポーツ振興

⑩スポーツ・レクリエーション活動の振興

スポーツ施設の整備・充実については、体育館、プール・トレーニング室、館山野球場及びパークゴルフ場などの計画的な整備は、市民の健康づくりを推進する上で欠くことのできないことである。今後も充実させてほしいと願う。併せて、施設の改修及び備品等の更新は、魅力ある施設運営に大きなウエートを占めるので、引き続き検討を進めてほしいと考える。

青 木 一 也

1 教育委員会の活動状況

教育委員会会議については、定例会において各委員とも高い関心と問題意識のもと、伊達市の教育に関する様々な案件に関して検討・協議されていることと思う。

また、学校運営協議会の設置に関わっての条件整備や運営方法など学校と地域がより連携を図るように努められたことが良かったと思う。さらに、市内の小中学校を訪問し、子どもの学びの様子や学校課題等を知る機会を得ることや各学校の課題把握に努めたことは継続してほしい。教職員の専門性を高めるための教育実践交流・研修会の開催も意義あるものと感じる。今後もより一層、学校との連携を密にし、各学校の要望や課題等を適切に把握して、教育活動が効果的に推進されますことを期待する。

2 「伊達市教育振興基本計画」に基づく管理及び執行状況の評価

(1) 学校教育

①社会で生きる実践的な力の育成

学力向上に向けた取組として「全国学力学習状況調査」や「伊達市学力テスト」の実施は、大変有効であり、結果分析をもとに学力・学習改善プランを作成し目標値を定めることで児童生徒の学力向上や教員の資質向上にも役だつと考えられる。平成28年度の分析結果でも具体的な数値が示されたことで各学校とも学習指導の工夫・改善を図る指針として活用できる。

特別支援教育については、伊達市特別支援コーディネーターや専門家チーム会議により乳幼児から中学校卒業まで一貫した支援が行われている。各学校において特別支援教育支援員17名、介助員18名を配置することで手厚い指導ができていると共に教員の負担軽減にも繋がっていると考えられる。

情報教育の充実については、教育用コンピューターの整備ができたことや情報モラルを身につけさせるための保護者への啓発など環境整備に関して充実していたと考えられる。今後とも学校だけでなく家庭への理解を得られるよう環境を整備してもらいたい。

環境教育の推進については、教育活動全体を通じて各学校が取り組んでおり、伊達市の自然や施設・人材を生かした教育を推進してもらいたい。

キャリア教育の推進については、児童生徒の発達段階に応じて将来の夢や目標をもつために、職場見学や体験学習など地域人材や施設を活用して学習している。今後は、小中学校が連携した活動なども視野に入れながら取り組むことも必要である。また、国際理解協力の視点からALTの外国語活動の充実も図られており、学習指

導要領の改定にともない積極的に外国人との交流や教職員の英語力の向上に向けた研修会や交流活動などが必須になると思われる。

高等学校のあり方の検討については、伊達市においては高等学校が2校あり各校とも特色ある教育を進めていることは理解している。生徒の将来に向けた教育活動や進路指導の取組をお願いしたい。

幼稚園教育の充実については、保護者の負担軽減を図られるよう努力してもらいたい。

②豊かな心と健やかな体の育成

道徳教育全体計画を見直し、各学校においては授業改善に向けた研修を行っていることは良い実践である。道徳の教科化に向けて、教職員のより一層の研修が必要であり計画的な取組が必要と考える。また、地域公開など学校での取組を理解してもらえるように工夫してもらいたい。

読書活動の推進に関しては、ボランティアサークルの支援や伊達市図書館の活用など読書に興味を持ってもらえる活動が見られるので今後も継続してもらいたい。

健やかな体を育てる教育については、各学校で「体力向上改善プラン」を策定し、体力テストを児童生徒に取り組ませ、その結果を家庭・個人へ知らせていることは良いことである。結果を参考に運動部活動やスポーツ少年団活動の参加など、日頃から運動する習慣を身につけるように取り組んでももらいたい。

キャリア教育では、体験学習を取り入れた学習を実施することができている。教育活動においても計画的に取り組めるよう地域人材や施設、自然を利用できる環境整備をしてもらいたい。

食育・健康教育の推進については、各学校の養護教諭や栄養教諭を指導していることはとても有効的である。ただ、朝食をとらない児童生徒もいることから、家庭への理解と協力を得てバランスの良い食事をするように啓発していただきたい。平成30年1月から食育センターが開設されるに当たり、なお一層児童生徒の健康のために給食を充実させてほしい。また、食物アレルギーについては、各校とも教職員全員が児童生徒について把握しアレルギー児童への対応方法の研修やエピペン実習など危機管理への対応研修なども良いと思う。

生徒指導・教育相談の充実については、北海道教育委員会によるいじめアンケート調査を行い把握し指導し、公表している。深刻な事態にならないように各校・教育委員会・医療機関など保護者の理解を得ながら早期発見・早期解決に向けて取り組んでももらいたい。また、教育相談においても早期発見をする上では大切な取組があるので積極的に行ってほしい。

③信頼される学校づくりの推進

開かれた学校づくりの推進については、学校評価や学校便りの公表・HPへの掲載、地域へ向けた公開参観日の実施など各校で様々な取組を進めている。また、コミュニティスクールを本年度中に全小中学校での導入を図ることで、地域や保護者の意見を反映される基盤ができたことは良いことである。今後は、学校運営協議会を活用するし、学校改善に生かしてもらいたい。

特色ある学校づくりの推進については、各校ともその地域の自然・施設・歴史・人材を活用し計画的・効果的に教育活動を進めている。

学校間の連携・接続の推進については、全ての中学校区で小中学校との学習指導・生徒指導・授業研究・児童交流など計画的に進めている。小中学校の連携を進めることで、教職員も発達段階に応じた学習や体験の意義が研修でき児童理解や授業改善にも繋がっている。また、幼稚園・保育園との連携においても、低学年と幼稚園・保育所との交流の機会を持ちスムーズな接続に繋がっているため今後とも教職員同士で連携し計画してもらいたい。

教職員の資質向上については、各種研修会や実践交流会の参加・個人研修を通して資質向上を図ることが子どもに還元できることになるので積極的な参加を奨励することが大切である。

④安全・安心な教育環境づくりの推進

望ましい教育環境を整備するために老朽化している施設・設備の改修工事や補修を進めることは大変重要なことである。耐震化率が小学校 72%となっているので100%に近づくようお願いしたい。

学校の安全対策の充実については、各校とも交通安全教室・防災、防犯教室の実施など計画的に実践されている。また、スクールガードリーダーの通学路等の巡回指導・危険箇所の点検と児童生徒の安全のため対策がとられているので良い。

少子化に対応した学校適正配置の推進では、保護者や地域との意見交換や協議を行い理解が得られるよう慎重に進めていただきたい

(2) 社会教育

⑤ふるさと意識を育て地域づくりに参加する青少年教育の推進

心を育む体験活動の推進については、各種事業等で子どもや異世代とふれあう企画が多く良い。また、青少年教育事業においても 324 名の参加者で関心が高く、今後とも様々なアイデアを出し楽しい企画を展開してもらいたい。

青少年団体活動の推進では、各種リーダー養成講習会への派遣されたことは今後の活動を推進する上で大切なことであり、今後も積極的に派遣要請を行い地域に還元できるような人材を育成してほしい。

⑥主体的な地域活動を推進するためのひとづくり・地域づくりの推進

生涯にわたる充実した学習機会の提供については、市民の多様な学習ニーズに対しての宅配講座や市民講座など充実していると思われる。実績率も411名の参加と高く、今後もより魅力的な講座の開設や人材発掘など企画してもらいたい。

高齢者が健やかで豊かに学ぶ機会の創出については、長生大学での講義や実技講座の実施など、生きがいをもって参加している高齢者の方も多と思う。男性の参加者が少ないとの反省もあるので、気軽に参加できる内容や運営面での検討が必要である。

家庭・地域の教育力の向上については、伊達市PTA連合会が行う研究大会に対する財政支援は、更なるPTA活動をする上で、大きな役割を果たしている。また、研究大会や各種研修会において、「広報だより」に掲載予定を掲載したことは、参加者への啓発にもつながったので今後とも継続した取組をしてほしい。

図書館機能の充実については、市民の意見や要望を反映した図書館運営の会議を行うことでより利用しやすい機能になることは良いことである。また、ボランティア団体による読み聞かせ、お話会、イベントなどの開催、読書感想文・感想画事業など、本が好きになる環境がつけられることは今後とも継続してもらいたい。

男女共同参画社会の推進については、講演会事業において参加者が70名となり事前の啓発や講演内容が、市民にも関心が持たれてものだと考えられる。今後も市民のニーズを考慮した企画をお願いしたい。

(3) 芸術文化

⑦個性あふれ、潤いのある地域文化の創造

芸術・文化活動の充実については、小中学生を対象とした巡回小劇場において本物の芸術に触れる機会として大切にしていきたいと考える。市民向けの定期的な芸術鑑賞会（舞台・音楽など）は、財政的な負担はあるが、市民が楽しみしているものであり可能な限り継続してほしい。

市民による創造型文化活動の推進については、市民の文化活動への参加意欲の向上を図る上で大切なものであり、サークル活動・文化芸術団体活動など財政面での負担助成や啓発活動など継続的に支援してほしい。

⑧芸術・文化のひとづくり・環境づくりの推進

芸術家育成としての機会を得る窓口としての役割が大きいと考えられる。音楽・絵画だけでなく人材発掘にも取り組んでもらいたい。

受託美術品等の保管と有効活用については、寄贈及び寄託された作品の展示・紹介を引き続きお願いしたい。

⑨歴史・文化を活かしたまちづくりの推進

文化財の展示保管環境の整備については、だて歴史文化ミュージアムが平成30年秋以降の開館を目指して整備改修されており、文化財を保護する上で大切な事業である。伊達市の歴史や文化財をより一層アピールし来館者が増えることを期待する。

文化財の保存と活用については、北黄金貝塚・開拓記念館など市民ボランティアの会の協力により、身近に学べる機会としては有効であると考えられる。

指定文化財の保護対策と指定化の推進については、伊達市にある数々の歴史的な財産を維持管理しながら、専門家による研究の推進や国や道による補助が必要不可欠と思われる。

広域的な文化資源の活用の推進については、世界遺産の登録に向けた各種講演や事業に向けて努力が必要と考える。また、世界遺産に登録されれば伊達市だけでなく周辺地域の活性化につながるのを期待したい。

(4) スポーツ振興

⑩スポーツ・レクリエーション活動の振興

スポーツ活動の場・機会の確保・スポーツ指導体制の整備促進については、伊達市体育協会やスポーツ推進委員会の連携のもと、市民がスポーツに親しむ機会を提供することは健康づくりや生きがいをもたらす意味でも有意義なものであるため、今後とも充実させてほしいと思う。また、「伊達市ハーフマラソン」「ノルディックウォーキング」「スキーマラソン」などは、市民だけでなく全国・全道から参加する人も多く知名度も高いので運営面での工夫をしながら継続してほしい。後継者育成としてのリーダー育成に関しては、各種団体へ働きかけ指導技術を高めるために研修会なども積極的に取り組んでもらいたい。

スポーツ施設の整備、運営については、伊達市体育館・プール・パークゴルフ場・市民球場と利用者も多く。利用者促進の意味でも運営方法について、より一層の取組をお願いしたい。

小 林 浩 路

1 教育委員会の活動状況

教育委員会会議については、定例会及び必要に応じて開催される臨時会において、各委員の高い関心と問題意識のもと、教育に関する様々な案件について検討・議決されていることと思う。

定例会の開催予定や傍聴の案内、会議録等をホームページに掲載するなど、透明性を示している。また、定例会の開催に合わせて行われている学校訪問や学校行事の視察等を通して、子どもたちの学校生活の様子、各学校の要望や課題等を的確に把握することは大変重要なことであり、是非、効果的な教育活動に反映されるよう期待する。

2 「伊達市教育振興基本計画」に基づく管理及び執行状況の評価

(1) 学校教育

①社会で生きる実践的な力の育成

伊達市独自に実施している学力テストにおいて、その成果が表れていることが伺われる。今後とも、一人一人の子どもの特性に沿った指導プランに基づいた継続的な指導が大切であると考えます。

特別支援教育の充実については、支援体制や内容が充実しており、今後とも教育的ニーズに応じた適切な指導や必要な支援活動が大いに期待される。

情報教育の充実については、情報化の進展が益々加速化することが予想され、情報活用能力の育成とともに、情報モラルの向上とネットトラブルやネット犯罪に巻き込まれないための指導が重要と考える。

環境教育の推進については、教育活動全体を通して計画的に取り組んでいることが伺われる。

キャリア教育の推進については、児童生徒の発達段階に応じて、将来の社会的・職業的自立のためには、小学校段階から全教育課程に位置付けることが必要と考える。

国際理解教育の充実については、ALTの学校派遣が効果を上げている。今後は、小学校で外国語活動が導入されたことを踏まえ、児童生徒の興味・関心を高める指導方法の充実と異なる文化や習慣をもった人々と協調して生きていく態度の育成が重要と考える。

②豊かな心と健やかな体の育成

豊かな心を育む教育の推進については、道徳教育全体計画及び道徳の年間指導計画の見直しが図られ、「道徳の時間」の授業改善に向けた校内研修が実施されている。今後の道徳の教科化に向けて、道徳教育推進教師を中心とした計画的な研修の推進が必要と考える。

健やかな体を育てる教育の推進については、体力テストの結果をもとに、児童生徒の実態に応じた「体力向上プラン」を作成し、体力・運動能力の向上に向けた指導が期待される。

体験的な学習・活動の充実については、特別活動や総合的な学習の時間等において、自然、勤労生産、社会奉仕に関わる体験活動を継続することが大切と考える。

食育・健康教育の推進については、朝食を毎日食べている児童生徒の割合が低下しており、引き続き、養護教諭や栄養教諭を中心とした食育指導とともに、保護者の理解と協力を得る必要があると考える。

生徒指導・教育相談の充実については、長期欠席児童生徒が微増しており、不登校児童生徒サポートハウスの活用とともに、不登校対策訪問アドバイザーやスクールカウンセラーと協力して教育相談・家庭訪問等のきめ細やかな支援体制が必要と考える。また、いじめの認知方法の変更により、「いじめにあった割合」が増加しており、いじめの未然防止や早期発見、早期解決のための効果的な取組が必要と考える。

③信頼される学校づくりの推進

開かれた学校づくりの推進については、全ての学校で学校関係者評価を導入し、学校経営に反映させている。また、学校運営協議会を通して地域への情報発信や学校支援ボランティアなどの地域人材の活用に努めている。

特色ある学校づくりの推進については、学校ごとに地域の歴史や文化資源を活用した授業や、地域の人材を活用した学習活動が行われており、地域理解につながっているものと考ええる。

学校間の連携・接続の推進については、中学校区を中心に小学校との学習指導、生徒指導、授業研究会の交流を実施して児童生徒理解を深め、子どもの学習意欲の向上や学習のつまずきに対応していることは「効果的な引継ぎ」を行っていることの大きな成果と考える。

教職員の資質向上については、研修会や公開研究会等への参加により、実践交流を通じた指導方法の工夫改善を図るとともに、本市における教育課題の共有化に結びつくものと考ええる。

④安全・安心な教育環境づくりの推進

耐震化、防災機能の充実については、老朽化した施設・設備の改修や修繕の実施により、児童生徒の安全と安心して学べる環境が確保されたことは大切なことである。今後も計画的な取組を期待する。

学校の安全対策の充実については、各校の取組はもとより、スクールガードリーダーの巡回指導により、不審者情報や危険箇所などの迅速な情報提供、通学路パトロールボランティアの活動等、地域ぐるみで児童生徒を見守る取組が広がりを見せているものと考えている。

(2) 社会教育

⑤ふるさと意識を育て地域づくりに参加する青少年教育の推進

心を育む体験活動の推進については、青少年を対象とした各種事業や研修が行われ、子ども同士や異世代等とふれあう貴重な機会となり、参加者が 324 名に達したことは青少年の健やかな成長を形成する上で効果的であったと考える。

青少年団体活動の推進については、道教委が主催する各種ジュニアリーダー養成講習会や姉妹都市、友好都市シニアリーダー研修交流会に青少年を派遣したことによって、リーダー養成とともに、団体相互の交流や各団体の活性化が期待できる。少子化に伴い青少年団体が減少している中で、伊達市の次代を担うリーダーの養成は、財政的な支援も含めて、今後も継続していくべき大切な事業の一つと考える。

⑥主体的な地域活動を推進するためのひとづくり・地域づくりの推進

生涯にわたる充実した学習機会の提供については、多様な学習ニーズに対応して、市民講座・市民カレッジに 411 人が受講し、生涯学習の活性化につながっているものと考えている。

高齢者が健やかで豊かに学ぶ機会の創出については、長生大学の学生 242 名が相互の研鑽と交流を通して、心身の健康と生きがいがいづくりの役割を果たしているものと考えている。

家庭・地域の教育力の向上については、親同士、親子交流の場をつくり、子育ての指導・支援を行うとともに、子育ての悩みに対応できる環境の充実を図っている。また、今年度、伊達西小学校に「放課後子ども教室」を設置するとともに、実施校の拡大を進めている。

図書館機能の充実については、ボランティア団体の協力により、絵本の読み聞かせ会、おはなし会などの行事・イベントの開催や、寄贈図書の小学校巡回事業などで読書活動の推進や図書館の利用促進の役割を果たしている。また、今年度、市民の意見や要望を反映した図書館運営を行うため、「伊達市立図書館あり方検討委員会」を開催し提言を行った。更には、伊達市立図書館運営協力会でも図書館機能の充実について提言を行っている。

男女共同参画社会の推進については、講演会事業を開催し男女共同参画意識の高揚を図るとともに、女性国内派遣研修会にリーダー派遣を行って人材育成と研修内容の環流を図っている。

(3) 芸術文化

⑦個性あふれ、潤いのある地域文化の創造

芸術・文化活動の充実については、小中学生に優れた舞台芸術を鑑賞させるため巡回小劇場事業を実施し、貴重な体験機会となっており、今後も継続実施が望まれる。また、文化関係団体と伊達メセナ協会による連携事業では、市民に芸術・文化を鑑賞する機会や作品展を提供している。

市民による創造型文化活動の推進については、伊達市文化協会との共催で市民総合文化祭を開催し、市民サークルまつりでは、サークル活動の育成と発表の場、更には、小規模文化サークル等の作品展示を行っている。今後も文化団体・文化サークルの育成のため、引き続き、財政的支援が必要と考える。

⑧芸術・文化のひとづくり・環境づくりの推進

芸術家の育成については、絵画と音楽の2分野で国際的に活躍している講師陣の協力を得て、「絵画教室」と「伊達音楽アカデミー」を開催し、高度な育成事業を展開し、人材発掘・育成に大きな役割を果たしているものとする。

受託美術品等の保管と有効活用については、受託品を良好な状態で保管するとともに、展示活用についての検討が必要と考える。

⑨歴史・文化を活かしたまちづくりの推進

文化財の展示保管環境の整備については、伊達市開拓記念館の老朽化に伴い、現在建設中の「だて歴史文化ミュージアム」での美術品や文化財等の効果的な展示活用が期待される。

文化財の保存と積極的活用については、史跡北黄金貝塚公園の来訪者が1万人を超えたほか、多様なイベントを実施し高い評価を得ている。今後は、解説ボランティア団体の高齢化が進んでいるため、新規会員の発掘・養成が必要と考える。

指定文化財の保護対策と指定化の推進については、有珠モシリ遺跡、若生貝塚、旧伊達邸跡の指定化の推進とともに、国・道・市指定文化財の保存と維持管理を計画的に進める必要があると考える。

広域的な文化資源の活用の推進については、北海道・北東北縄文遺跡群の世界遺産登録に向けた気運を高めるための更なるPRが必要と考える。

(4) スポーツ振興

⑩スポーツ・レクリエーション活動の振興

スポーツ活動の促進については、年齢や体力、健康志向等に応じた各種スポーツ活動の機会の提供や各種スポーツ教室が開催されており、青少年から幅広い年齢層を対象としたスポーツ活動の普及促進が図られている。

スポーツ施設の整備・充実については、総合体育館、温水プール、パークゴルフ場、サッカー場などのスポーツ施設が充実しており、市民の健康・体力づくりに大きく寄与しているものとする。